



金沢KOGEI アクションプラン

— 金沢の工芸の未来に向けて —

改定版

金 沢 市

令和6年3月



「金沢K O G E I アクションプラン」の改定にあたって

金沢の繊細かつ多彩な工芸は、藩政期以来400年以上にわたり、連綿と受け継がれ、磨き高められてまいりました。平成21年には、ユネスコ創造都市ネットワークにクラフト分野で登録されるなど、その独自の輝きは、国内外から高く評価され、金沢の文化、産業の発展に大きな役割を果たしてきました。平成27年には北陸新幹線金沢開業を迎え、国内はもとより、海外からも多くの人々が本市に訪れるようになり、本市の工芸に対する関心は、より一層高まっています。

こうした現状を踏まえ、令和2年に、金沢の工芸の継承・振興を図るとともに、新しい時代に即した戦略的な取組みを進めることを目的に、今後の10年間を見据えた「金沢K O G E I アクションプラン」を策定いたしました。プランでは、「作り手と使い手を育み、未来へ継承・発展させる世界の工芸都市 金沢」を基本理念とし、具体的な施策を推進していくこととしています。

しかしながら、策定から3年が経過した近年、本市工芸を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。世界中を震撼させた新型コロナウイルス感染症は、デジタル分野における急速な技術革新を背景に、人々の価値観や行動を一変させました。また、令和6年元日に発生した能登半島地震は、県内全域に多くの被害をもたらし、伝統工芸や観光をはじめとする地域経済や市民生活に大きな影響を及ぼしました。加えて、今後は人口減少・少子高齢化の進展、物価・エネルギー価格の高騰など、全国的な諸課題にも対応していくことが求められています。

また、本市においては、令和6年3月に北陸新幹線金沢―敦賀間の開業に伴い、さらなる交流人口の拡大が期待される中、首都圏における金沢クラフトの魅力発信拠点として、「KOGEI Art Gallery 銀座の金沢」が移転オープンとなります。

このような状況を踏まえ、この度、プランの中間見直しを実施し、必要な改定を行いました。今後は従来の基本理念に、5つ目の将来像「工芸とデジタルが融合するまち」を加え、具体的な施策を推進していくこととしています。金沢のまちに息づく多様な工芸を育成・支援・発信するとともに、能登半島地震で被災した能登地方の伝統工芸の復興を支援していくことで、本市経済の活性化や豊かな市民生活の実現につなげていく所存です。

最後に、本アクションプラン改定にあたり、ご協力いただきました改定検討委員会の委員各位をはじめ、貴重なご意見、ご提案をお寄せいただいた市民の方々や関係の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。また、今後のアクションプランの実行にあたりましても、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年3月

金沢市長 村山 卓

目 次

第1章 金沢K O G E I アクションプランの改定について.....	1
1. 策定の背景	1
2. 改定の目的	1
3. 金沢における伝統工芸品産業	2
第2章 工芸の現状と課題	5
1. 工芸を取り巻く環境の変化.....	5
2. 今後取り組むべき事項	7
第3章 アクションプランの基本的な考え方	10
1. プランの位置づけ	10
2. プランで取り扱う「工芸」	13
3. プランの対象者	17
4. プランの推進期間	17
5. プランの基本理念と将来像.....	18
第4章 具体的な施策とアクションプランの推進	24
1. 具体的な施策	24
2. 主なモニタリング指標	29
3. 推進体制	30
参考資料	31

第1章 金沢K O G E I アクションプランの改定について

1. 策定の背景

金沢の伝統工芸品産業は、藩政期からの長い歴史の中で、市民の生活と文化・経済を支えてきました。

本市では、歴史文化を生かしたまちづくりに取り組んできており、ものづくりを大切にし、産業として振興していくことでまちを元気にしたいという思いから、平成21年に「金沢市ものづくり基本条例」を施行し、さらに、ユネスコ創造都市ネットワークに世界で初めてクラフト分野で登録されるなど「手仕事のまち 金沢」を発信してきました。

また、平成22年には、伝統工芸品産業においても、これまで培ってきた技術を確実に継承し、世界に通用する新たなものづくりを進める必要があることから、その具体的な指針として「金沢市伝統工芸品産業アクションプラン」を策定し、「人材育成」「製品開発」「情報発信・販路拡大」「普及推進」の4分野を柱として位置づけ、様々な施策を実施してきました。

令和2年、新たな計画として、「金沢K O G E I アクションプラン」を策定しましたが、新たなプランでは、これまで進めてきた取組みを踏まえつつ、新しい時代に対応した工芸の需要創出と工芸技術の継承・発展に向けて、広く市民や地域、事業者等と連携、協働しながら「世界の工芸都市 金沢」を目指しています。

2. 改定の目的

「金沢K O G E I アクションプラン」策定から概ね3年が経過する中、能登半島地震による県内全域での被害の発生や、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会・経済活動の変化、物価・エネルギー価格の高騰、デジタル技術の進展、「いしかわ百万石文化祭 2023」の開催、北陸新幹線の敦賀延伸など、市政を取り巻く環境は大きく変化しています。また、令和5年12月の、本市の新たなまちづくりの指針である金沢市都市像「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」の策定に伴い、本プランとの整合を図る必要が生じました。これらのことを踏まえ、プランの中間見直しを行い、令和6年3月、必要な改定を行いました。

3. 金沢における伝統工芸品産業

(1) 特長

本市には数多くの伝統工芸があり、その多彩さは国内屈指の水準にあります。金沢における伝統工芸品産業の存在は、基幹産業であるとともに、市民の質の高い生活を支え、「伝統工芸の盛んなまち」として、金沢のアイデンティティの根幹をなしています。

加賀地域に伝わってきた技術に、先進地であった京都のデザインや技法などが融合され、武家文化独特の豪華さと信仰心の厚い町衆の風土に根付いた繊細な様式を併せ持つ加賀調のデザインが確立されることで、金沢の工芸文化は、他の都市とは異なる独自性を持ち、国内外から高い評価を得ています。さらに、今もなお工芸品が日常生活の中で愛用され、豊かな生活文化を育んでいること、工芸的なものづくりの精神が現代の産業に活かされていることが、金沢における伝統工芸品産業の大きな特徴となっています。

(2) 歴史

日本各地の工芸産地の多くは、その発生や発展の過程において、藩政期に地域を治めた大名が重要な役割を担ってきました。金沢においては、加賀藩主前田家はその役を果たし、伝統工芸品産業の誕生、発展は金沢のまちの歴史と深く関わっていました。

■ 藩政期以前

金沢の市街地が生まれる契機は、戦国時代、加賀、能登を支配した一向一揆衆の拠点として、小立野台地の先端、現在の金沢城の一角に建立された金沢御堂にさかのぼります。加賀一円の一向宗門徒からの普請により完成した御堂の周囲には、近郊の商工業者が集められました。

織田信長の手勢、佐久間盛政によって金沢御堂が陥落すると、城郭として整備され、その後、信長の家臣で当時七尾にあった前田利家が金沢城に入城しました。朝鮮の役の際、利家が肥前名護屋の陣中から金沢・能登に金・銀箔の製造を命じる文書が残っており、この頃にはすでに箔の製造が行われていたと考えられています。

■ 藩政期

金沢城主となった前田家は、金沢御堂跡の城郭を拡大するとともに、城下町の整備を進めました。また、必要な物資を集めるため、諸国から商工業者の移入を進めていきました。

こうした商工業者には、前田家に知己を得た、京都や伏見などの商人や職人も多く、城内への居住や、税の免除などの保護が与えられました。また、能登中居の鋳物師として知られた宮崎彦九郎が、利家に従って七尾から金沢に移るなど、工芸に携わる職人たちの転入も進んでいきました。

二代藩主利長の頃、城内に設けられた御細工所は武器・武具の補修を行う組織でありましたが、三代藩主利常により武具だけでなく、城内で使用する調度品の制作や修理も手がける組織として充実されました。工芸品制作の指導者として京都や江戸から多くの名工の招へいも進み、五代藩主綱紀の代には、御細工所は実用的な武具の整備から、工芸品制作を中心とする組織として拡充されました。藩営工房の性格を強めた御細工所は、幕府や公家、諸侯への贈答、冠婚葬祭など様々な局面での工芸品の需要を支えました。また、「百工比照」として全国から収集した工芸関係資料は学術的な価値のみならず、制作技術の向上も促しました。藩の御細工所だけでなく、町方においても多くの職人の手により様々な工芸品が生み出されました。

■ 明治期～戦前

明治維新に伴う廃藩置県により、武家向けの工芸品の需要が一度に失われ、多くの職人が仕事を失いました。もと武士層の困窮、藩と密接な関わりを持っていた商人の衰退もあり、工芸産業はもとより、都市の活力も急激に減退していきました。こうした動きを食い止めるべく、殖産興業の一環として工芸の産業化を目指す動きも始まりました。失業中の金工職人を集めた金沢銅器会社が設立され、輸出用の象嵌銅器などを生産するとともに、パリで開かれた博覧会に出品され、好評を博しました。

また、勸業巡回教師として招へいされた納富介次郎が設立し、初代校長に就任した金沢工業学校（現在の石川県立工業高校）は、工芸や美術の世界で指導的な立場にあった人物を多く招き、後に多くの名工を輩出することとなりました。

大正時代に入ると、金沢工業学校出身者などから作家的な活動がはじまり、殖産興業から美術工芸への移行が顕著となり、昭和2年には帝国美術院展覧会に工芸部門が設置され、工芸が美術の一部門として認知されました。

金沢の多くの職人が入選したことで、東京、京都と並ぶ工芸の盛んな都市として、金沢の認知が高まりました。

■戦後

戦中から終戦直後にかけては、工芸品の多くが贅沢品として統制を受けただけでなく、多くの職人が兵役や軍需工場等へ徴用され、伝統工芸品産業は崩壊状態となりました。

昭和21年、金沢美術工芸専門学校（現在の金沢美術工芸大学）が設立されました。戦災を受けなかったこともあり復興は早く、日本美術展覧会や、日本伝統工芸展に多くの入選者を輩出することになり、美術工芸の分野から多くの注目を集めることになりました。

経済成長とともに需要が上向き、生産が回復する工芸品がある一方で、生活様式の変化により、日常生活に根ざした工芸品の需要は減退しはじめ、従事者の減少、後継者問題も顕在化し、存立が危ぶまれる分野も目立ってきました。

■戦後～現代

昭和40年代に入り、公害問題など高度成長に伴うひずみが表面化する中で、大量消費、使い捨ての機械文明に埋没した生活に対する反省の結果として、伝統的なものへの回帰、手仕事への興味、本物志向の高まりから、伝統的工芸品産業を建て直そうという気運が盛り上がってきました。

その一方で、後継者の確保難、原材料の入手難などの問題をかかえる伝統的工芸品産業が、産業としての存立基盤を失いかねない危機に直面しており、地場産業の中核を担う伝統的工芸品産業の不振が地域経済に与える影響を見過ごせなくなりました。このような背景のもと昭和49年に「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」（以下、「伝産法」という。）が制定され、国による振興策がスタートしました。

金沢では、昭和50年に加賀友禅、九谷焼が指定された後、昭和50年代前半までに金沢仏壇、金沢箔、金沢漆器が指定され、平成3年に加賀繡が伝統的工芸品産業に指定されました。

平成元年には、市制100周年記念事業として、加賀藩御細工所の精神を基盤に、金沢の伝統工芸の継承・発展を図るための工芸の総合的施設として金沢卯辰山工芸工房を設立しました。令和元年には、市制130周年記念事業としてリニューアルし、時代の変化に対応しうる質の高い工芸家の育成機能を強化しました。

第2章 工芸の現状と課題

1. 工芸を取り巻く環境の変化

伝統工芸品産業は、ライフスタイルの変化や安価な海外製品の流入などにより、需要が低迷し、事業者数の減少、従事者の高齢化や後継者不足などに加え、道具・材料等の確保難など全国的に大変厳しい状況に置かれています。

本市では、積み重ねられてきた手仕事を次の世代に継承・発展させるため、重点的に人材育成に取り組んできており、金沢卯辰山工芸工房や金沢美術工芸大学などから多くの作家や職人が輩出され、国内外での活躍が見られるとともに、多様なつながりも生まれつつあります。

こうした中、令和6年元日に発生した能登半島地震では、石川県内の伝統工芸品産業に甚大な被害をもたらしました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、生活様式を一変させるなど、工芸を取り巻く環境は大きく変化しています。一方で、デジタル技術の進展に伴い、制作工程や情報発信にその技術を積極的に活用する作家や事業者も多く見受けられるようになりました。

本市においては、平成27年の北陸新幹線金沢開業を契機に、国内外からの来訪者が飛躍的に増加し、令和2年には、東京国立近代美術館工芸館の移転・開館も行われました。また、令和6年には、北陸新幹線金沢―敦賀間が開業するほか、金沢クラフト首都圏魅力発信拠点「KOGEI Art Gallery 銀座の金沢」が移転オープンします。

地震の影響が大きかった能登地方の伝統工芸品産業への復興に向けた取り組みを推し進めるとともに、北陸新幹線金沢―敦賀間の開業など来るべき好機を的確に捉えるため、社会環境の変化に積極的に対応していくことが求められています。

○これらを踏まえ、本市工芸の強み、課題、機会を以下のとおりまとめました。

強み	<ul style="list-style-type: none"> ・国内屈指の多彩さ ・技術力と表現力の高さ ・歴史、文化との深いかわり ・高い都市ブランド力 ・国際的な工芸展覧会の知名度の高さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手工芸作家、職人等の活躍 ・民間催事の活発化 ・作り手への手厚い支援 ・育ちつつある多様なつなぎ手人材 ・文化都市・金沢の推進
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・需要の低迷、事業者数の減少 ・従事者の高齢化、後継者不足 ・道具、材料等の確保難 ・コロナ禍で落ち込んだ需要の回復 ・時代とニーズに即した情報発信 ・能登半島地震により被災した能登の伝統工芸品産業への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ手の重要性の高まり ・生業とするための経営スキルの習得 ・モノからコト消費への対応 ・原材料や燃料の価格高騰への対応 ・インボイス等国の制度改正への対応
機会	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化への関心の高まり ・工芸の美術的な価値への注目 ・文化の経済波及効果への期待 ・北陸新幹線金沢－敦賀間開業 ・大阪・関西万博の開催 ・「いしかわ百万石文化祭2023」のレガシーの継承・発展等による経済波及効果への期待 ・金沢クラフト首都圏魅力発信拠点「KOGEI Art Gallery 銀座の金沢」の移転開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮への関心の高まり ・国内外からの観光客の来訪 ・東京国立近代美術館工芸館の移転、開館 ・デジタル技術の進展

2. 今後取り組むべき事項

金沢の工芸を取り巻く環境の変化や状況から、今後取り組むべき事項を取りまとめました。

(1) 工芸の需要創出

① ものづくり環境の整備

金沢の工芸品の需要を生み出すためには、「使い手」が普段の生活から工芸品に触れ、使ってもらうことが重要です。

そのため、金沢での暮らしの中に「工芸」が息づく環境を整備することが求められます。

② 工芸の新しい需要の創出

さらに今後は、異業種・異分野のコラボレーションを促すことで、工芸に関わる新産業を創出し、工芸の新しい需要を生み出すことも大切です。

(2) 「作り手」が活動を続けるための環境づくり

① 「作り手」の活動支援

本市では「作り手」の育成に力を入れており、金沢卯辰山工芸工房や金沢美術工芸大学等から多くの作家・職人を輩出しています。

今後は、技術的な育成環境に加え、自己プロデュース力や経営能力など、「作り手」が自分の力で事業継続できるよう支援をすることが重要です。

② 「つなぎ手」の育成・支援

「作り手」の作品を「使い手」に、「使い手」が求める作品を「作り手」に届きやすくするためには、プロデュースや発信をするコーディネーター等「つなぎ手」の育成や支援も重要になっています。

(3) 世界に誇る工芸の発信・交流

① 世界の展示会・見本市での発信

金沢は、これまで培ってきた工芸技術を大きな価値とし、工芸の表現の新しい可能性と豊かさを世界へ発信できるまちです。そのため、世界的なアートフェアや見本市への出展、工芸を中心とした世界的な催事を金沢で継続的に開催するほか、工芸に関係する多様な人材との交流を推進するなど、双方向の国際展開により世界市場における金沢の工芸の価値を高めることが大切です。

② 金沢から世界への発信

近年、世界のアート市場において日本の工芸に対する評価が高まっています。金沢には、北陸新幹線開業以降、国外からの来訪者も増加しています。

世界の各地から、工芸に携わる多様な人々が金沢に集い活躍できる環境を整え、世界に通用するマーケットの場を創出し、金沢の工芸文化を広く発信することは、「工芸ビジネスの集積地」としての基盤を築くことにつながります。

(4) 工芸技術の継承と創造

① 制作技術のアーカイブ化

金沢がこれからも世界に誇る工芸のまちであるためには、長年育んできた工芸技術を後世に継承することが大切です。高度な技術を持つ「作り手」から若い「作り手」へ技術を伝えることに加え、先進的な技術を駆使し、職人技術を記録し保存することが必要です。また、これらのアーカイブをもとに、既成概念にとらわれない革新的な手法も取り入れ、未来に向けてさらに金沢の工芸の技術を高めることが大切です。

② 原材料や道具の確保

伝統的な技術・技法による生産には、地域の風土に根ざした原材料や道具などの生産基盤の安定的な確保も重要です。各業種における原材料や道具の生産、供給、調達手段について、体系的に調査することが必要です。

（５）デジタル技術の活用

① 情報発信の強化

金沢の工芸が少子高齢・人口減少社会においても活力を維持するためには、若い世代に魅力を周知することが重要です。そのためには、新型コロナウイルス感染症の流行を境に急速に進展したデジタル技術の活用は、工芸の世界においても有効な手段です。

新たな需要の創出や後継者・担い手不足の解消に向けて、デジタル技術を活用した効果的な情報発信の強化が必要です。

② 工芸の価値向上

デジタル技術の進展は、工芸の制作工程における変化をもたらしています。制作工程だけでなく、伝統工芸とデジタル技術の融合により、既存の枠組みにとらわれない時代のニーズに呼応した工芸の新たな価値を創造することが必要です。

第3章 アクションプランの基本的な考え方

1. プランの位置づけ

本プランは、金沢の工芸の持続的な発展に向けた具体的な施策展開の指針とするものです。金沢市都市像「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」の実現に向けた行動計画である「未来共創計画」を上位計画として位置づけ、「金沢版総合戦略」や「金沢市文化芸術アクションプラン2024」などの市の関連計画とも整合性を図り策定しました。

◆上位計画

・未来共創計画

◆関連計画

- ・金沢版総合戦略
- ・金沢市文化芸術アクションプラン 2024
- ・金沢市新産業成長ビジョン
- ・金沢市ものづくり戦略 2015
- ・金沢市持続可能な観光振興推進計画 2021
- ・金沢の食文化の魅力発信行動計画

金沢KOGEIアクションプラン —金沢の工芸の未来に向けて—

◆条例・都市宣言

- ・世界工芸都市宣言（平成7年議決）
- ・金沢ファッション産業都市宣言（平成16年議決）
- ・金沢市ものづくり基本条例（平成21年施行）
- ・ユネスコ創造都市ネットワーク・クラフト分野登録（平成21年）
- ・金沢の食文化の継承及び振興に関する条例（平成25年施行）
- ・金沢市における文化の人づくりの推進に関する条例（平成28年施行）

(1) 未来共創計画

金沢市都市像に掲げる将来像「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢～すべての人々と共に、心豊かで活力ある未来を創る～」の実現に向けた行動計画であるとともに、本市の市政運営の最上位計画です。5つの基本方針のうち、「基本方針1 世界に誇る伝統と創造の文化が息づくまち」において、「世界が認める食文化と金沢クラフトの発信」を主要施策に掲げています。また、「基本方針4 創造・変革により成長するまち」において、「DX・GXの推進と文化・産業の融合による産業活性化」や「金沢の個性である伝統工芸品産業の継承と振興への支援」を主要施策に掲げています。

(2) 金沢版総合戦略

まち・ひと・しごと創生法に基づく国の総合戦略に積極的に呼応し、金沢の個性、強みである歴史や伝統、学術、文化、地域コミュニティなど、地域の資源を最大限に生かすとともに、あらゆる分野においてデジタルの力を活用し、本市における地方創生の実現を図る具体の行動計画です。

(3) 金沢市文化芸術アクションプラン2024

本市の伝統文化の継承・振興と新たな文化の創造・醸成・発信を図るとともに、文化芸術の持つ多様な価値を活かした実践的な文化芸術施策をまとめています。

(4) 金沢市新産業成長ビジョン

産学官金の連携のもと、「ヒト」「モノ」「技術」「情報」を集積・活用し、進取性と多様性を受け入れ、新たな挑戦がしやすい環境を構築するとともに、歴史に育まれた本市固有の「文化」と「産業」を融合することで、本物の価値を高め、創造・変革していくまちをめざしています。

(5) 金沢市ものづくり戦略2015

「金沢市ものづくり基本条例」(平成 21 年施行) の理念を具現化するため、ものづくり産業の将来像とその実現に向けた行動計画を示しています。

(6) 金沢市持続可能な観光振興推進計画2021

本市は城下町として発展し、保存と開発、伝統と革新のバランスの中で重層性を増しながら「由緒あるほんもの (Authenticity & Quintessence)」を未来へと紡いでいますが、これらの営みを絶えず行い、経済・社会・環境の調和を図ることで、市民と旅行者が金沢の価値を共有し、将来にわたって共に高めていける観光のあり方を推進していくことをめざしています。

(7) 金沢の食文化の魅力発信行動計画

「金沢の食文化の継承及び振興に関する条例」(平成25年施行) を契機に、豊かさと奥深さを実感できる食文化の継承及び振興に官民協働し取り組むため、料理、菓子、酒、調味料、食材、しつらえ、もてなし、流通等の食文化に関する36団体で構成する「金沢の食文化推進委員会」を発足し、魅力発信や技術向上、人材育成などに相互協力し取り組むことを申し合わせた。本市の大きな魅力・強みの一つである「食文化」を効果的・効率的に施策展開していくことを目的としています。

2. プランで取り扱う「工芸」

金沢の伝統工芸品産業の多彩さは国内屈指の水準です。「伝産法」による指定を受けた6業種のほか、希少伝統工芸が20業種あります。この希少伝統工芸は、「伝産法」の要件をほぼ満たしながらも国指定業種ほどの産業規模を有しない業種等であり、後継者育成などの振興策の対象とされてきたものです。ただし、これらの中には従事者がいなくなったために失われた業種もあります。

また、金沢の伝統工芸の継承・発展を図るための工芸の総合的施設である金沢卯辰山工芸工房では「陶芸」「漆芸」「染」「金工」「ガラス」等、従来の伝統工芸の技術を活かした新しい工芸の技術研鑽が行われています。

その作品は、作り手や使い手の志向性等に応じて、芸術的な表現を目指しながらも機能性をもった「美術工芸」、職人が量産し、多くの使い手に販売される「産業工芸」、個人作家等による少量生産で、普段の暮らしの中で使われる「生活工芸」に大きく分類されますが、極めて多様なジャンルの工芸品が生み出されているのも金沢市の大きな特徴です。

本プランでは、こうした多種多様な業種等を広く「工芸」として取り扱います。

【伝統的工芸品産業の振興に関する法律】・・・「伝産法」

昭和49年に制定された法律で、伝統工芸品について以下のように規定しています。

1. 主として日常生活の用に供されるものであること。
2. その製造過程の主要部分が手工業的であること。
3. 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。
4. 伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるものであること。
5. 一定の地域において少なくない数の者がその製造を行い、又はその製造に従事しているものであること。

令和5年10月現在、全国で241品目が指定されています。

◆国指定伝統工芸品… 6 業種

加賀友禅、九谷焼、金沢仏壇、金沢箔、金沢漆器、加賀繡

◆希少伝統工芸品（伝産法未指定のもの）…20業種

大樋焼、加賀象嵌、茶の湯釜、桐工芸、郷土玩具、加賀毛針、加賀竿、竹工芸、二俣和紙、加賀水引、銅鑼、金沢和傘、加賀提灯、太鼓、琴、三弦、金沢表具、手捺染型彫刻、かつら・かもじ、菓子木型

◆金沢卯辰山工芸工房で研修が行われる科目

陶芸、漆芸、染、金工、ガラス

<国指定伝統工芸品>



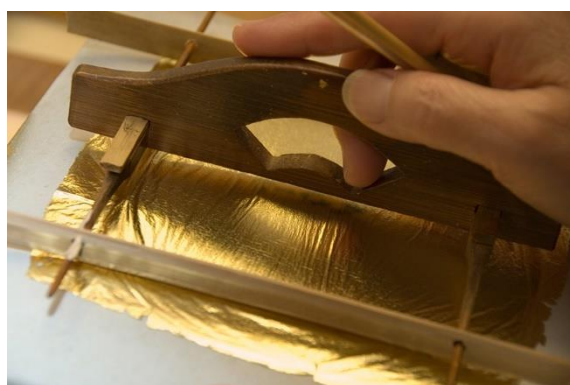
加賀友禅



九谷焼



金沢仏壇



金沢箔



金沢漆器



加賀繡

<金沢卯辰山工芸工房で研修が行われる科目>



金沢卯辰山工芸工房 外観



陶芸



漆芸



染



金工



ガラス

3. プランの対象者

本プランでは、工芸に関わる全ての市民、事業者を対象とします。

その関わり方によって、以下のとおり工芸の「作り手」「つなぎ手」「使い手」とします。

(1) 工芸の「作り手」

工芸の作り手とは、作品を作るために自らの手で材料や道具等の素材を集め、作品制作、販売まで行っている者（いわゆる作家（artist））や、工芸品の制作プロセスの一部工程を担当するスペシャリストとして、工芸品の制作活動を支えている者（いわゆる職人（artisan））等のことを指します。

これらの作り手の働き方には、個人事業主として活動する者もいれば、工房の従業員として従事している者もいます。

(2) 工芸の「つなぎ手」

工芸の「つなぎ手」は、「作り手」と「使い手」をつなぐ人材のことです。

ギャラリーやショップを通じて「作り手」の作品の魅力を「使い手」に伝える役割を担うギャラリストやバイヤー、作品を「使い手」により手にとってもらいやすくするためにテーマや展示を企画するコーディネーターや、異業種・異分野のコラボレーションを促すことで、工芸品の新しい需要を生み出すプロデューサー等が「つなぎ手」の役割を担っています。

(3) 工芸の「使い手」

工芸の「使い手」は、工芸に興味を持ち、趣向や目的に沿った作品の購入や工芸の技術や歴史等を通じて、工芸と関わりを持つ人のことです。

4. プランの推進期間

本プランの推進期間は令和2年度から令和11年度の10年間とします。

また、3年ごとに推進状況を確認し、社会情勢の変化や金沢の工芸を取り巻く環境の変化などを考慮しながら、必要に応じてプランを見直します。

5. プランの基本理念と将来像

(1) 基本理念

作り手と使い手を育み、未来へ継承・発展させる世界の工芸都市 金沢

金沢市伝統工芸品産業アクションプランでは、伝統工芸品産業の継承・発展の重要性を鑑み、主に「作り手」に向けて多彩な手厚い支援を行ってきました。しかし、本市の工芸を取り巻く現状や課題を踏まえると、「作り手」の支援のみならず、工芸品を愛で使う「使い手」や、「作り手」と「使い手」をつなげる「つなぎ手」も合わせて育てる環境を整備することが求められています。また、世界の中の工芸都市として高い技術力を発信するとともに、次世代へ技術・知恵を継承することで、金沢の工芸を未来へ継承・発展させていくことが必要です。

そこで、本プランの基本理念を「作り手と使い手を育み、未来へ継承・発展させる世界の工芸都市 金沢」と定め、「工芸が日々の暮らしに息づき、手仕事の技能と知恵を継承・発展させるとともに、心を動かす新しい工芸を創造し、世界を引きつけるまちを目指す」こととします。

(2) 将来像

基本理念のもと、策定時の4つの将来像に5つ目の将来像として「工芸とデジタルが融合するまち」を加え、施策展開の柱として位置づけます。

【基本理念】

作り手と使い手を育み、
未来へ継承・発展させる
世界の工芸都市 金沢

【5つの将来像】

工芸が息づくまち

工芸を育むまち

工芸が世界に羽ばたくまち

工芸を未来に伝えるまち

工芸とデジタルが融合するまち（追加）

将来像 1 工芸が息づくまち

市民生活の中に格調高い技と美に対する豊かな感性を育んできた歴史的背景を大切にし、工芸が暮らしに息づくまちを目指します。

◆取り組むべき行動

伝統工芸品の需要が低迷する中、金沢の工芸品の需要を生み出すためには、「使い手」が普段の生活から工芸品に触れ、使ってもらうことが重要です。そのため、金沢での暮らしの中に「工芸」が息づく環境を整備します。

また、「作り手」の作品を「使い手」に、「使い手」が求める作品を「作り手」に届きやすくするために、プロデュースや発信をするコーディネーター（「つなぎ手」）の育成も不可欠です。

◆施策の方向性

①工芸を身近に感じる機会の創出

②工芸に親しむ「使い手」の育成

③「作り手」と「使い手」をつなぐ環境整備

将来像 2 工芸を育むまち

工芸に携わる「作り手」「使い手」「つなぎ手」が連携し、工芸を金沢のまち全体で育てる仕組みを作り、工芸を育むまちを目指します。

◆取り組むべき行動

本市では「作り手」の育成に力を入れており、金沢卯辰山工芸工房や金沢美術工芸大学等から多くの作家・職人を輩出しています。

今後は、技術的な育成環境に加え、自己プロデュース力や経営能力など、「作り手」が自分の力で継続して活動が続けられるよう支援をすることが重要です。

また、工芸に携わる多様な人が金沢に集い活躍する環境を作ることで、「工芸ビジネスの集積地」としての基盤を築く必要があります。

◆施策の方向性

①「作り手」のスキルアップ支援

②生業として持続できるものづくりの推進

③まちなかでの制作環境の整備

将来像3 工芸が世界に羽ばたくまち

工芸に関するビジネスが集積し、世界の工芸との交流が生まれ、金沢から世界へと工芸が羽ばたくまちを目指します。

◆取り組むべき行動

金沢は、これまで培ってきた工芸技術を大きな価値とし、工芸の表現の新しい可能性と豊かさを世界へ発信できるまちであり、さらに近年、世界のアートフェア市場において日本の工芸に対する評価が高まっており、国外からの来訪者も増加しています。

そのため、世界的なアートフェアや見本市への出展、工芸を中心とした世界的な催事を金沢で継続的に開催するほか、工芸に関係する世界の多様な人材との交流など、双方向の国際展開により世界市場における金沢の工芸の価値を高めることが大切です。

◆施策の方向性

①世界の工芸分野との人材交流

②世界的なアートフェアや見本市への進出、開催

③世界への工芸技術の発信

将来像 4 工芸を未来に伝えるまち

何世代にも渡り受け継がれてきた技術を継承するとともに革新を加えることで、未来に向けて新しい工芸を創造するまちを目指します。

◆取り組むべき行動

金沢がこれからも世界に誇る工芸のまちであるためには、長年育んできた工芸技術等を後世に継承することが大切です。高度な技術を持つ「作り手」から若い「作り手」へ技術を伝えることに加え、先進的な技術を駆使し、職人技術を記録し保存することが必要です。

また、これらのアーカイブをもとに、既成概念にとらわれない革新的な手法も取り入れ、未来に向けてさらに金沢の工芸の技術を高めることが大切です。

さらに、異業種・異分野のコラボレーションを促すことで、工芸に関わる新産業を創出し、工芸の新しい需要を生み出す必要があります。

◆施策の方向性

①制作技術等の保存と継承の推進

②革新的なものづくりの推進

将来像5 工芸とデジタルが融合するまち（追加）

リアルとデジタルのそれぞれの特徴や良さを活かして、工芸品の需要拡大や若手作家等の育成につなげていくことで、工芸とデジタル技術が融合するまちを目指します。

◆取り組むべき行動

金沢の工芸が少子高齢・人口減少社会においても活力を維持するためには、若い世代に魅力を周知することが重要です。

そのためには、新型コロナウイルス感染症の拡大を境に急速に進展したデジタル技術の活用は、工芸の世界においても有効な手段です。

新たな需要の創出や後継者・担い手不足の解消に向けて、効果的な情報発信の強化や既存の枠組みにとらわれない時代のニーズに呼応した工芸の新たな価値を生み出すことが必要です。

◆施策の方向性

① 新しい時代に対応した情報発信の強化

② デジタル技術を活用した工芸の価値向上

第4章 具体的な施策とアクションプランの推進

1. 具体的な施策

(1) 工芸が息づくまち

①工芸を身近に感じる機会の創出

具体的な施策	事業の内容等
「作り手」と「使い手」が交流する 催事の開催支援	・制作体験や工芸品販売等の催事開催、開催支援 ・工芸に関する催事の情報発信
茶道や華道など工芸品を取り扱う 伝統文化の奨励	・伝統文化教室の開催支援 ・伝統文化を体験する催事開催、開催支援
宿泊施設、飲食店等地元企業への 工芸品の普及促進	・工芸品を活用する地元企業等の紹介 ・クラフトビジネス創造機構でのマッチング支援
体験を販売に結びつける取組みの強化	・クラフトビジネス創造機構でのセミナー開催 ・制作体験を販売等につなげる新事業への支援

②工芸に親しむ「使い手」の育成

具体的な施策	事業の内容等
市民の工芸の目利き力向上のための意識啓発	・目利き人材育成講座の開催 ・各種展覧会開催の支援
次世代が工芸品に触れる機会の創出	・各種子ども塾の開催 ・子どもが伝統文化を体験する催事開催、開催支援

③「作り手」と「使い手」をつなぐ環境整備

具体的な施策	事業の内容等
「つなぎ手」となる人材育成の支援	・インターンシップ等つなぎ手育成の支援 ・作り手との交流の支援 ・異分野、異業種との交流会の開催
「作り手」「つなぎ手」データベースの作成、 充実、情報の提供	・クラフトインデックスマップの充実 ・工芸に関する人材等のワンストップ窓口の開設

(2) 工芸を育むまち

①「作り手」のスキルアップ支援

具体的な施策	事業の内容等
「作り手」の継続的な事業活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営セミナーの開催 ・ 企画力、ブランド力向上のための事業の支援
新しい時代に対応したものづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい工芸品開発の支援 ・ 異分野、異業種との交流会の開催 ・ 金沢未来のまち創造館での先端技術との連携の推進

②生業として持続できるものづくりの推進

具体的な施策	事業の内容等
金沢市や他都市での展示会開催時及び出展時の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金沢市での展示会の開催、開催支援 ・ 国内外での展示会の開催、開催支援
新しい時代に対応した販売手法の研究推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラフトビジネス創造機構でのセミナー開催 ・ 情報技術等の先端分野との共同研究の支援
工芸技術を活用した新商品開発 コラボレーション事業への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新製品開発の支援 ・ クラフトビジネス創造機構でのマッチング
「作り手」の技を活かしたコトづくりの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラフトビジネス創造機構でのセミナー開催 ・ 異分野、異業種との交流会の開催

③まちなかでの制作環境の整備

具体的な施策	事業の内容等
「作り手」がまちなかで活動するための支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工房開設、改修の支援 ・ 多様な携わり方の情報発信 ・ 地域での交流イベント開催の支援
「作り手」が集い交流する環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異分野、異業種との交流会の開催 ・ 各種団体等の自主開催事業の支援

(3) 工芸が世界に羽ばたくまち

①世界の工芸分野との人材交流

具体的な施策	事業の内容等
金沢市や海外の主要な美術館、展示会等での「作り手」や「つなぎ手」との人材交流	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市工芸協会、金沢美術工芸大学、金沢卯辰山工芸工房等による人材交流 ・海外工芸関係者を招へいしたセミナーの開催

②世界的なアートフェアや見本市への進出、開催

具体的な施策	事業の内容等
海外の主要アートフェアや見本市への出展及び出展支援	<ul style="list-style-type: none"> ・海外見本市等の出展支援 ・都市間交流での作り手の派遣
世界に通用するアートフェアや見本市の金沢での開催支援	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市での世界的なアートフェアや見本市の開催支援 ・金沢世界・工芸トリエンナーレの開催

③世界への工芸技術の発信

具体的な施策	事業の内容等
「KOGEI Art Gallery 銀座の金沢」を活用した金沢工芸と食の魅力発信（追加）	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢美術工芸大学や金沢卯辰山工芸工房と連携し、若い世代の工芸のアート作品を展示・販売 ・生活工芸品や、希少伝統工芸品等を展示・販売 ・近隣の飲食店等と連携したPRイベントの開催 ・能登半島地震により被災した能登の伝統工芸品への支援
工芸技術に関する海外への情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・都市間交流での作り手の派遣 ・海外での技術研修参加の支援
海外からの美術工芸愛好家を受け入れる環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸分野における海外対応の推進 ・美術工芸愛好家向け見学、体験受け入れの支援

(4) 工芸を未来に伝えるまち

①制作技術等の保存と継承の推進

具体的な施策	事業の内容等
伝統工芸技術、素材、道具等の体系的調査と記録の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢美術工芸大学での「平成の百工比照」収集 ・業界、高等教育機関等と連携した調査の実施 ・業界等が行う技術、素材、道具等に関する他産地との協力への支援
伝統工芸技術の習得推進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の人づくり奨励金の交付 ・希少伝統専門塾の開催 ・作家、職人による専門的技術習得の支援
持続可能性を意識したものづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育機関等と連携した研究開発の支援 ・金沢未来のまち創造館での先端技術との連携の推進

②革新的なものづくりの推進

具体的な施策	事業の内容等
金沢未来のまち創造館での異業種交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術の情報提供 ・異分野、異業種との交流を推進 ・異分野、異業種とコーディネートする人材の育成 ・工芸技術を活かしたものづくりの支援
「作り手」を対象とした技術向上研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀友禅技術振興研究所及び金沢箔技術振興研究所での技術研修会の開催 ・先端的なものづくり、最新デザイン等の研修会開催 ・各種団体等の自主研修事業開催の支援

(5) 工芸とデジタルが融合するまち（追加）

①新しい時代に対応した情報発信の強化

具体的な施策	事業の内容等
デジタル技術を活用した情報発信の強化	・ ターゲットやニーズに即したSNSの発信
デジタル技術を活用した展示会の開催や作家等の魅力発信	・ デジタル工芸展の機能強化 ・ 能登半島地震により被災した工芸作家の情報を発信

②デジタル技術を活用した工芸の価値向上

具体的な施策	事業の内容等
デジタル技術を駆使した新たな需要拡大	・ インターネットやデジタルサイネージを活用した販売機会の創出
デジタル技術を活用した作品の展開、保存	・ 工芸作品のデジタルアーカイブ化

2. 主なモニタリング指標

本プランの進捗状況を適切に把握するため、以下の主な指標のモニタリング結果を踏まえ、新たな施策の必要性や施策の修正などを検討していきます。

将来像 1		工芸が息づくまち	
項目	数値根拠・計測手法	R 元年度末 数値	現状数値 (R 4 年度末)
・金沢工芸子ども塾、匠会の 受講者数	・金沢市集計 (設立からの累計受講者数)	延べ 181 人	延べ 206 人
・市民の金沢の工芸品使用割合	・金沢市集計 (e-モニター調査)	45.0%	50.3%
・市内飲食店等での工芸品使用程度	・金沢市集計 (e-モニター調査)	64.9%	70.7%
・ギャラリー、店舗数	・金沢クラフトビジネス創造機構 集計 (クラフトインデックス登録数)	83 者	100 者

将来像 2		工芸を育むまち	
項目	数値根拠・計測手法	R 元年度末 数値	現状数値 (R 4 年度末)
・伝統工芸品産業従事者数	・各業種集計	2,252 人	2,080 人
・国指定 6 業種生産額	・各業種集計	102 億円	73 億円
・作り手の数	・金沢クラフトビジネス創造機構 集計 (クラフトインデックス登録数)	145 者	161 者

将来像 3		工芸が世界に羽ばたくまち	
項目	数値根拠・計測手法	R 元年度末 数値	現状数値 (R 4 年度末)
・作家、職人等の国際交流数	・金沢市集計	派遣 2 招へい 7	派遣 0 招へい 2
・アートフェア、見本市等出展・ 開催者数	・金沢市集計 (アートフェア、見本市出展者調査)	出展 3 開催 1	出展 5 開催 1

将来像 4		工芸を未来に伝えるまち	
項目	数値根拠・計測手法	R 元年度末 数値	現状数値 (R 4 年度末)
・国指定 6 業種伝統工芸士数	・各業種集計	246 人	220 人
・工芸技術研修会参加者数	・金沢市集計	209 人	135 人
・平成の百工比照 収集数	・金沢美術工芸大学集計	約 5,600 点	約 6,200 点

将来像 5		工芸とデジタルが融合するまち	
項目	数値根拠・計測手法	R 元年度末 数値	現状数値 (R 4 年度末)
・金沢市デジタル工芸展作品 出品数	・金沢市集計	—	1,571点
・金沢市デジタル工芸展閲覧数	・金沢市集計	—	約732,000 ページビュー
・デジタルサイネージでの紹介 作品数	・金沢市集計	—	—

3. 推進体制

本プランを着実に実践していくためには、工芸の主体である「作り手」「使い手」「つなぎ手」と、工芸の発展を支援する行政とが連携して取組みを進める必要があります。このため関係者や有識者等で構成する連絡会議を開催（3年に1回）し、各種施策の効果的な推進に努めていきます。

参考資料

〔資料1〕金沢市伝統工芸品産業アクションプラン2020策定検討委員会設置要綱

（目的及び設置）

第1条 本市は、伝統工芸品産業の現況及び課題の分析等を行い、本市における伝統工芸品産業アクションプラン2020（以下「アクションプラン」という。）の策定に関し必要な事項を検討するため、金沢市伝統工芸品産業アクションプラン2020策定検討委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討を行う。

- （1）伝統工芸品産業の現況及び課題の分析に関する事項
- （2）前号の分析の結果の整理に関する事項
- （3）伝統工芸品産業の振興に関する施策及び重点プロジェクトに関する事項
- （4）その他アクションプランの策定に関し必要な事項

（組織等）

第3条 委員会は、委員12人以内で組織する。

2 委員は、学識経験者、伝統工芸品産業の関係者等のうちから、市長が委嘱する。

3 委員の任期は、委嘱の日から令和2年3月31日までとする。

（委員長）

第4条 委員会に、委員長1人を置き、委員の互選によりこれを選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第5条 委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集し、委員長が議長となる。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、経済局営業戦略部クラフト政策推進課において処理する。

（雑則）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、令和2年3月31日限り、その効力を失う。

〔資料2〕金沢市伝統工芸品産業アクションプラン2020策定検討委員会 委員

委員長	寺井 剛敏	金沢美術工芸大学 教授
委員	岩本 歩弓	岩本清商店、乙女の金沢プロデューサー
委員	奥田 雅子	加賀友禅作家、奥田染色（株）
委員	金谷 勉	（有）セメントプロデュースデザイン 代表取締役
委員	坂井 直樹	金工作家、金沢市工芸協会 会員 東北芸術工科大学 准教授
委員	新木 伊知子	（一社）金沢クラフトビジネス創造機構 専務理事兼事務局長
委員	高橋 俊宏	（株）ディスカバー・ジャパン 取締役 編集長
委員	永田 宙郷	合同会社ててて協働組合 共同代表
委員	本山 陽子	ガレリア ポンテ 代表 atelier & gallery creava COO KOGEI Art Fair Kanazawa 副実行委員長
委員	鷺田 めるろ	あいちトリエンナーレ2019 キュレーター (敬称略・順不同)

※各委員の役職は令和元年7月10日現在のもの。

[資料3] 検討経緯

令和元年7月10日	第1回委員会	・金沢市伝統工芸品産業アクションプラン 2020（仮称）策定について ・意見交換
10月1日	第2回委員会	・「第1回検討委員会の発言」「作家・ギャラリー等のヒアリング」の要旨について ・アクションプランの基本的な考え方について
11月5日	第3回委員会	アクションプランの骨子案について
12月2日～	令和2年1月3日	パブリックコメントの実施
令和2年1月14日	第4回委員会	パブリックコメントの結果報告

〔資料4〕金沢K O G E I アクションプラン改定検討委員会設置要綱

（目的及び設置）

第1条 本市は、伝統工芸品産業の現況及び課題の分析等を行い、本市における金沢K O G E I アクションプラン（以下「アクションプラン」という。）の改定に関し必要な事項を検討するため、金沢K O G E I アクションプラン改定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討を行う。

- （1）伝統工芸品産業の現況及び課題の分析に関する事項
- （2）前号の分析の結果の整理に関する事項
- （3）伝統工芸品産業の振興に関する施策及び重点プロジェクトに関する事項
- （4）その他アクションプランの改定に関し必要な事項

（組織等）

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、学識経験者、伝統工芸品産業の関係者等のうちから、市長が委嘱する。

3 委員の任期は、委嘱の日から令和6年3月31日までとする。

（委員長）

第4条 委員会に、委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第5条 委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集し、委員長が議長となる。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、経済局クラフト政策推進課において処理する。

（雑則）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、令和6年3月31日限り、その効力を失う。

[資料5] 金沢K O G E I アクションプラン改定検討委員会 委員

委員長	寺井 剛敏	金沢美術工芸大学 教授
委 員	井上 淳	(一社) 金沢クラフトビジネス創造機構 専務理事兼事務局長
委 員	岩本 歩弓	岩本清商店、乙女の金沢プロデューサー
委 員	奥田 雅子	加賀友禅作家、奥田染色 (株)
委 員	金丸 義勝	株式会社 A440 代表取締役
委 員	上端 伸也	九谷焼作家、金沢市工芸協会 理事
委 員	本山 陽子	ガレリア ポンテ 代表

(敬称略・順不同)

※各委員の役職は令和5年9月4日現在のもの。

[資料6] 令和5年度 検討経緯

- | | | |
|-----------|-------------|--|
| 令和5年9月4日 | 第1回委員会 | ・金沢KOGEIアクションプラン改定について
・意見交換 |
| 9月中旬 | ～ 11月中旬 | ・業界団体、工芸作家等への聞き取り調査 |
| 11月29日 | 第2回委員会 | ・業界団体、工芸作家等への聞き取り調査結果報告
・改定後のアクションプランの骨子（案）について |
| 12月19日 | ～ 令和6年1月17日 | パブリックコメントの実施 |
| 令和6年2月26日 | 第3回委員会 | パブリックコメントの結果報告 |

〔資料 7〕 工芸に関する状況と主な意見（令和元年実施）

本市内で活動する作家やギャラリー等工芸関係者に個別ヒアリング（作家等 5 者、ギャラリー 7 者）及びグループヒアリング（作家 3 者、ギャラリー 1 者）を実施した結果並びに検討委員会での代表的な意見を整理しました。

（1）工芸について

- ・美術工芸に合った支援の仕方、産業工芸には、生活工芸には、と整理したプランにすることで、作家自体の多様性もあり、金沢で工芸に接する使い手にとっても、それぞれ工芸の楽しみ方を得られる。
- ・正しく作られて思いがある正直なモノづくりや、自分自身がつくりたいものを誠心誠意作る作り手が育つまちにしないと生き残っていけない。
- ・工芸は、買う人や使う人など全体で考え、全体を育てていく必要がある。
- ・モノよりコト消費に移っている。

（2）工芸の需要創出

- ・体験ができる場所や見る場所が、もっと身近にできれば、将来的に差別化できる。
- ・小学生時に文化等に触れるということに力を入れたら良い。
- ・補助金の対象になった作家の日常の活動が日々の景観になる取組みも必要。
- ・工芸の作り手と消費者をつなぐためのコーディネーター役を担う人たちを育てていくことが急務。
- ・作家それぞれが持つ技術をセルフプロデュースするプロデューサー的な視点が必要になってくる。
- ・対外的にプロデュース、発信したりする人材が不足している状況である。ディレクター育成のための補助を検討することも今後必要。
- ・支え手、繋ぎ手の必要度は上がっており、販売のみちづくりのサポートを手がけたら良い。
- ・今後どのような取組みにより、作家として生活していけるかを作家と一緒に考えてくれる人が必要。
- ・作品を見てもらえる場を作ってくれる目利きの方の存在は大きい。
- ・商品開発、販路理解、他ジャンルの吸収など通年的で体系的なスクールを実施したら良い。
- ・作家にもアテンド技術が必要で、話し合ったり、学ぶ場があると良い。
- ・異なるジャンルも含め、作家同士で研究をすることができると良い。
- ・作家には資金の支援だけではなく、マネタイズ、経営、宣伝部分の勉強が必要。
- ・作家や職人は、お金のことに詳しくなかったりする。一人の個人事業主として作家を育成する目線が必要である。

- ・間屋が増えていないため、職人が前に出て売らなければならない。
- ・イノベーションは、異分野の組み合わせであるため、色々掛け合わせることで可能性が生まれる。
- ・加賀友禅が生き残っていくためには、伝統を維持しつつ、時代の感性にいかにもうまく融合させるかという点にかかっている。
- ・作家自身の作るモチベーションや、商品開発に対する自身の向上心を養うことが先決である。
- ・コラボレーションで作品を作ると、技術向上につながる。
- ・ギャラリーは、作り手を紹介するだけでなく、育てることを行ってほしい。

(3) 世界に誇る工芸の発信

- ・クラフトマンシップという生き方について、手間と無駄を評価し、価値にして生活していけるまちという形で残ると、世界の中の金沢として語れるようになる。
- ・海外にしっかりと工芸を発信できる場に対して金沢市もリーチするという取組みをやったら良い。
- ・世界の美術界を意識して制作しており、海外でのアートフェアへの参加や、これをコーディネートしてくれる人材が必要。
- ・海外の展示会に出展し、それぞれの国の流通ルートや小売手法を学んでいる。
- ・アートフェア等の出展には、テーマ設定や切り取り方が重要で、プロのディレクション、キュレーションが必要。

(4) 工芸技術の継承と創造

- ・継承、発展、発信に加え、記録することも大切である。技術が残っていくことが一番良いが、どうしてもやめなければならない人たちもいる。
- ・アーカイブは、印象的なイメージカットではなく、肘の張り方や腰の位置など、実際に活用できるものにする必要がある。
- ・職人には、量をこなして優れた技術を身につけている人もいるが、若い職人へ技術をいかに伝えるかが課題。
- ・優れた技術が残っているうちに、保護していくようなことも考えなければならない。
- ・木工などの技術を残すことを目的とし、技術を見せる場があれば良い。
- ・加賀友禅も90%は伝統に縛られている。残りの10%は制作者のセンスを込めることができる。つまり「伝統は常に新しい」というのは、10%の工夫のことかもしれない。
- ・ジャンル、素材、技法等の壁を超えた個々のオリジナリティを持つ人材が必要。

〔資料 8〕 工芸に関する状況と主な意見（令和 5 年実施）

本市内で活動する作家やギャラリー等工芸関係者に個別ヒアリング（組合等 7 者、作家等 9 者、ギャラリー 4 者、製造・販売・小売等事業者 4 者、金沢美術工芸大学学生（工芸科）ほか）を実施した結果及び検討委員会での代表的な意見を「金沢 K O G E I アクションプラン」の将来像と新たな視点である「デジタル技術の活用」に分けて整理しました。

（1）「工芸が息づくまち」について

①工芸を身近に感じる機会の創出

- ・都心軸 K O G E I プロムナード発信事業のように、ホテルに作品を設置すると、国内外から金沢に訪れた観光客が作品を気に入り販売につながる。
- ・ホテルや金沢の料亭に海外からのお客様が多数訪れている。金沢を訪れた人に身近に作品を見てもらえると作家としては嬉しい。企業に金沢のうつわや工芸を用いた装飾品を積極的に活用してもらうための支援があったら良い。
- ・地元企業のオフィスなどに工芸作家やアーティスト、デザイナーなどクリエイティブな人が交わるような仕組みがあると良い。アーティストインオフィスなど金沢市民に工芸をどのように還元していくかという視点をもつべきである。
- ・一般の方と工芸作家との距離感が離れている。作品の価格が高騰化しているが、なぜ高いかがわかってもらえない。実際に工芸に触れて、体験してもらうことで大変さがわかることもある。

②工芸に親しむ「使い手」の育成

- ・工芸は敷居が高く若い人にはなじみのないものになっている。若い世代を対象とした工芸に関心がもてる取組みを増やして欲しい。

③「作り手」と「使い手」をつなぐ環境整備

- ・作品を展示する場所を探している作家は多い。ギャラリーとつながるための窓口や相談できる場所があると助かる。

（2）「工芸を育むまち」について

①「作り手」のスキルアップ支援

- ・工芸作家も独立するならば製造業や小売業の起業家、個人事業主と変わらない。ビジネススキルを身につけるべきである。しかし、学ぶ機会がないため、価格の値付け、請求書や領収書の発行、名刺交換すらできない人もいる。

- ・「作り手」はデザイン、マーケティング、ブランディング、マネタイズを勉強すべきである。しかし、セミナーを受講するだけではなかなか身につかない。1回きりのセミナーではなく、個別に相談できる伴走支援の窓口があればよい。
- ・作家がセルフプロデュースや情報発信を行うために専門家への相談窓口があればよい。

②生業として存続できるものづくりの推進

- ・材料費の中でも特に金の価格が高騰しており、何らかの支援があれば有り難い。
- ・インボイスや電子帳簿保存法への対応が難しい。負担も大きく、一度セミナーに行っただけでは理解できないので、個別に相談できる体制があれば助かる。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響はまだ残っており、コロナ前と比べると売上や客数は80%程度。北陸新幹線敦賀延伸や大阪・関西万博に期待している。これらの機会を活かしたい。
- ・京都には神社仏閣があり、神社仏閣内の装飾品に用いられている工芸品の修復や買い替えに関するニーズがある。金沢にもそのようなニーズがあると思われる。

③まちなかでの制作環境の整備

- ・工房開設支援が受けられる対象エリアが拡大されればよい。
- ・工房開設の支援が受けられるエリアをわかりやすく示したマップなどがあればよい。

(3)「工芸が世界に羽ばたくまち」について

①世界の工芸分野との人材交流

- ・海外の工芸都市との交換留学を行って欲しい。
- ・東京や国外の作家、異業種とコラボレーションすることで、新たな価値や気づきが生まれる。市外の作家や異業種と交流が持て、刺激を受ける場や機会が欲しい。
- ・金沢市の姉妹都市・交流都市の縁を活用し、海外や東京の作家、アーティストと交流することがあると良い。

②世界的なアートフェアや見本市への進出、開催

- ・国外の展覧会への出展支援があると、自分の作品を知っていただく機会が増えると思う。世界への挑戦の敷居が低くなると思う。
- ・来秋、石川県で伝統的工芸品月間国民会議全国大会が開催される。4回目の開催となるが、これまでも集客や売上が大きかった。この機会を捉え、全国に金沢の工芸の魅力を発信する必要がある。

③世界への工芸技術の発信

- ・コロナが明けて、工芸も観光部門と連携し、世界に向けて販路拡大、プロモーションを行っていくべきである。円安の時代でもあるので、海外をターゲットにすべきである。やはり国内市場の中心は東京だと思う。
- ・新しい「銀座の金沢」は単なる土産物屋、よくあるアンテナショップのような店舗ではなく、「本物」にこだわってほしい。
- ・新しい「銀座の金沢」は、金沢の工芸や次世代の若手作家を知るプラットフォーム的な役割を担ってほしい。
- ・新しい「銀座の金沢」でもワークショップができる体制は維持してほしい。
- ・金沢卯辰山工芸工房や金沢美術工芸大学の魅力的な作品を展示するシステムを強化する必要がある。

(4)「工芸を未来に伝えるまち」について

①制作技術等の保存と継承の推進

- ・加賀友禅については、なぜ需要の低迷が起こり着物文化が生活から離れてしまったのか、次の世代にどのように伝えるかが大切である。
- ・金継ぎなど、直して使うという考えは時代に合っている。
- ・文化の人づくり奨励金は非常にありがたい制度だが、交付期間が3年と短い。5年ほど修行してようやく、市の別の補助金に応募できる程度の技量が身につく。この制度を呼び水として、作家や職人のなり手を増やすべきと考える。
- ・希少伝統工芸専門塾は若い人に対して工芸の門戸を広げており、よく機能していると思う。卒業生も塾に顔を出しており、コミュニティの形成にもつながっている。開設分野が広がればよいと思う。
- ・大人が工芸を本格的に学び直すことができる場があればよい。プロにとっても自分と異なる分野の工芸を知ることによって技術向上につながる。
- ・金沢市は子供のころは文化やアートに触れる機会を提供しているが、大人になってからも文化にアクセスできる機会があればよい。

②革新的なものづくりの推進

- ・作家や職人、支援機関、美大の間でネットワークを強化することで、イノベーションが起きると思われる。
- ・野球界の大谷翔平のように、工芸界を牽引するようなスーパースターが誕生してほしい。多少とがっていても良い。「こんな人になりたい」「工芸界ってかっこいい」と思わせる

ような若者から憧れの的になるような人がいれば若者から注目を集める。

(5) デジタル技術の活用について

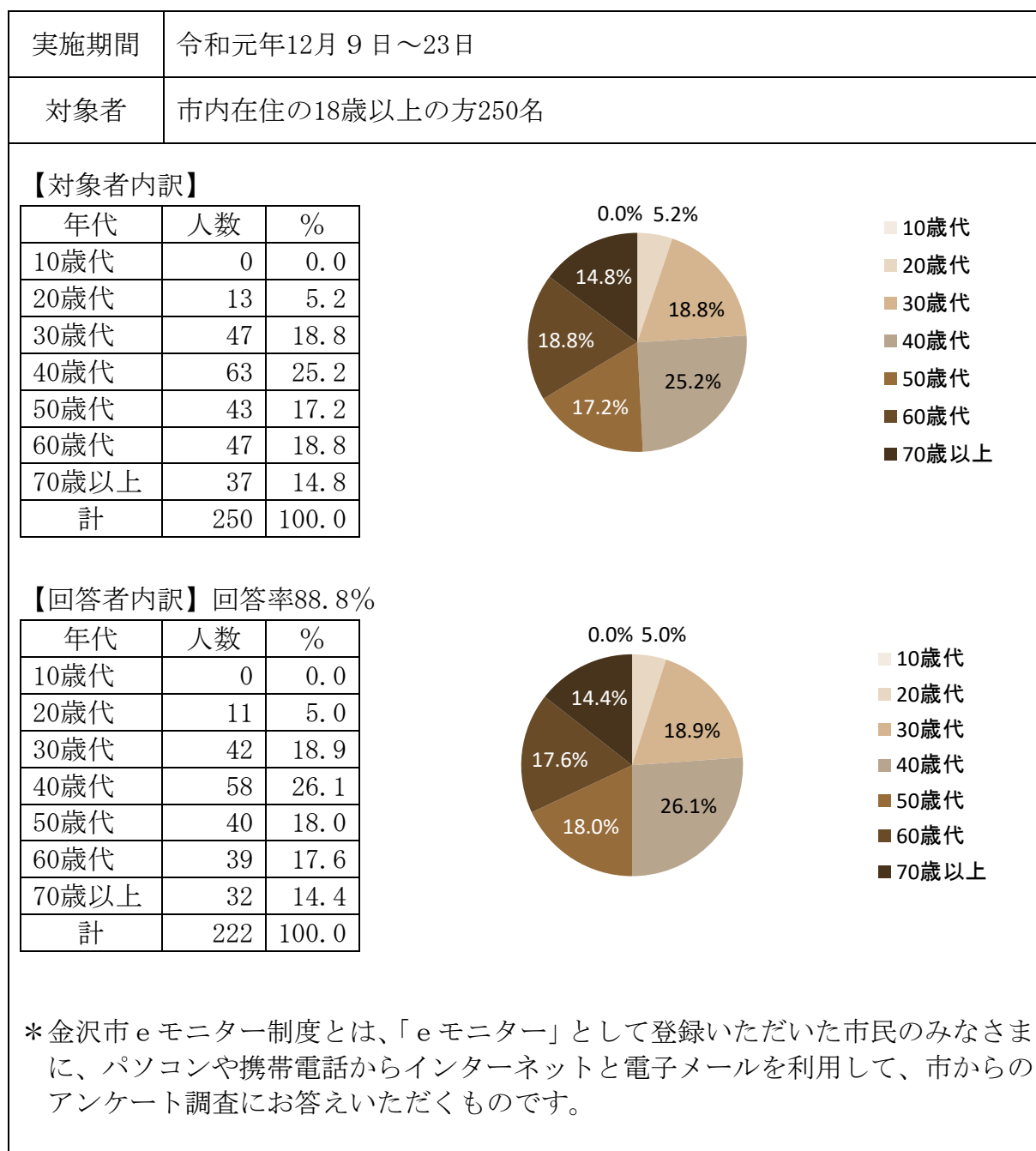
①情報発信の強化

- ・ インスタグラムやツイッターなどSNSを活用し、市の工芸施策を市民の方に認知される取り組みが大切だと思う。
- ・ デジタル技術を活用し、作家や作品の情報発信に力を入れることが必要である。ARでも動画配信でも良い、行政はそのサポート環境を整えるべきと考える。
- ・ 若い世代には工芸品の良さはなかなか伝わらない。デジタル技術を用いて作品の良さをわかりやすく可視化する必要がある。
- ・ ウェブ上で気軽に工芸品の展示会を見ることができればよい。
- ・ デジタル工芸展に掲載されることで取材や作品の問い合わせがある。非常に良い取り組みだ。利用者の傾向を把握することもできればよい。

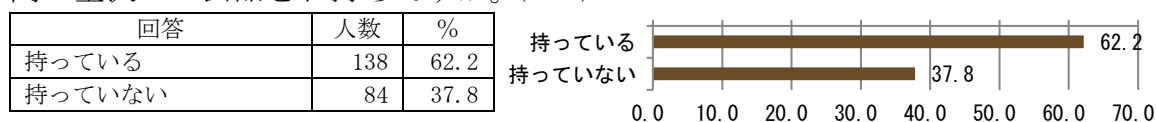
②工芸の価値向上

- ・ 「身近でリアルに作品の良さを感じる」と「デジタル技術を活用すること」を上手に絡ませていく必要がある。
- ・ メタバースの中でデジタル販売が行われていると聞く。工芸を知らない世代に工芸の良さを知ってもらうことができると思う。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行を契機とし、ネットでの売買が定着したように思う。ネット販売ができる環境を整える必要がある。
- ・ デジタル工芸展において、デジタル技術を用いて、作品を色々な角度から見ることであれば、面白いと思う。
- ・ 人間国宝の技術や考え方をデジタル技術で可視化させ保存し、次世代に継承しやすい環境を整えている地域がある。また、工芸作品をデジタルアーカイブすることで、手元に作品が無くても作品を発信できる。
- ・ デジタル技術を活用すれば想像しえないものが出てくる可能性がある。しかし、伝統として守ってきた手仕事の良さをなくしてはいけない。

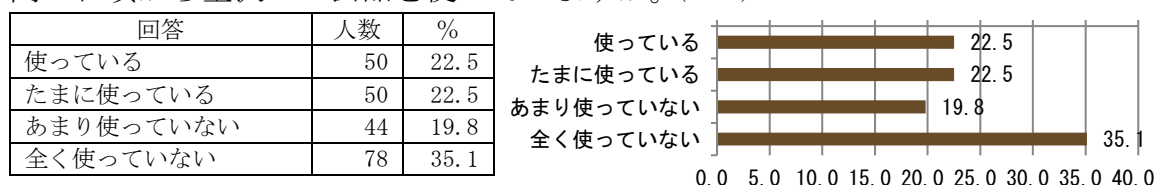
【資料9】 工芸に関する意識調査概要（金沢市eモニター制度*）



問1 金沢の工芸品をお持ちですか。(n=222)



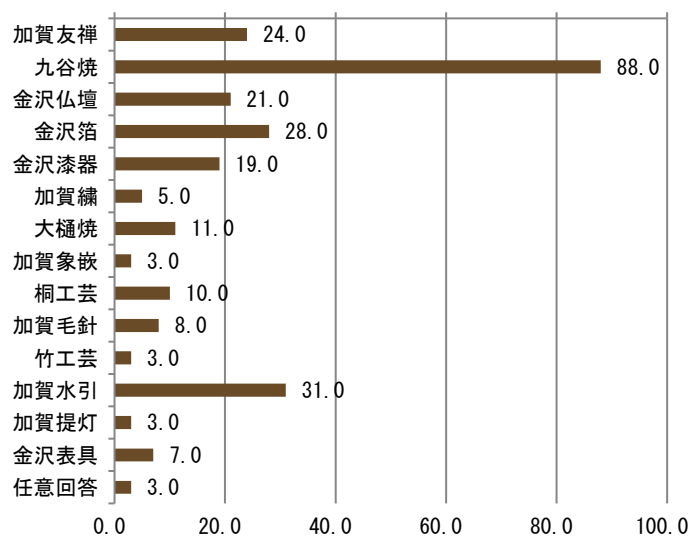
問2 日頃から金沢の工芸品を使っていますか。(n=222)



問3 (問2で「使っている」「たまに使っている」と答えた人) 日頃使っている工芸品はどれですか。(複数選択可) (n=100)

回答	人数	%
加賀友禅	24	24.0
九谷焼	88	88.0
金沢仏壇	21	21.0
金沢箔	28	28.0
金沢漆器	19	19.0
加賀繡	5	5.0
大樋焼	11	11.0
加賀象嵌	3	3.0
桐工芸	10	10.0
加賀毛針	8	8.0
竹工芸	3	3.0
加賀水引	31	31.0
加賀提灯	3	3.0
金沢表具	7	7.0
任意回答	3	3.0

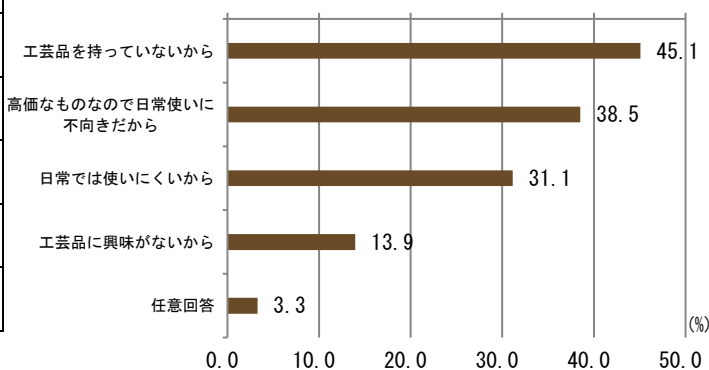
※任意回答 ガラス1、金工1、郷土玩具1



問4 (問2で「あまり使っていない」「全く使っていない」と答えた人) 金沢の工芸品を使わない理由は何ですか。(複数選択可) (n=122)

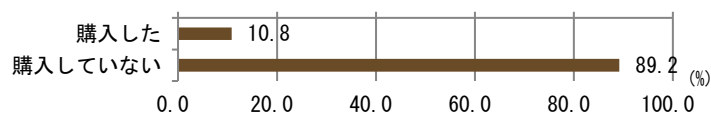
回答	人数	%
工芸品を持っていないから	55	45.1
高価なもので日常使いに不向きだから	49	38.5
日常では使いにくいから	38	31.1
工芸品に興味がないから	17	13.9
任意回答	4	3.3

※未回答5



問5 この1年間に自分用に金沢の工芸品を購入しましたか。(n=222)

回答	人数	%
購入した	24	10.8
購入していない	198	89.2

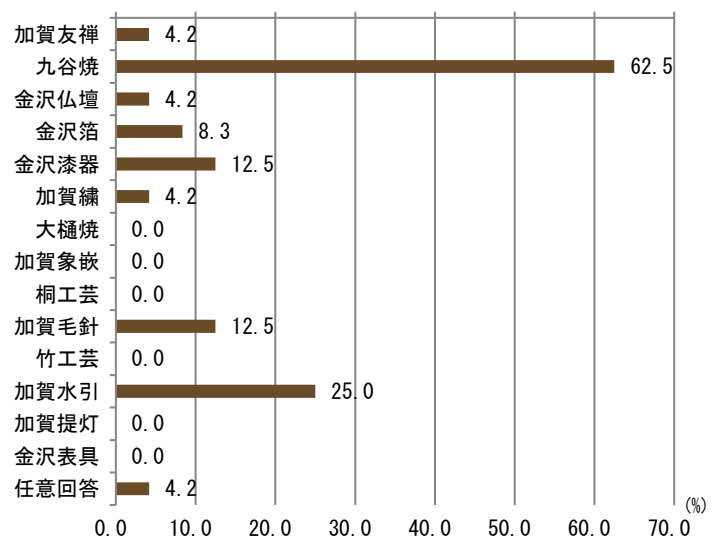


問6 (問5で「購入した」と答えた人) 購入した金沢の工芸品はどれですか。(複数選択可)

(n=24)

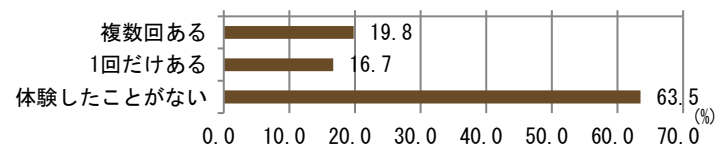
回答	人数	%
加賀友禅	1	4.2
九谷焼	15	62.5
金沢仏壇	1	4.2
金沢箔	2	8.3
金沢漆器	3	12.5
加賀繡	1	4.2
大樋焼	0	0.0
加賀象嵌	0	0.0
桐工芸	0	0.0
加賀毛針	3	12.5
竹工芸	0	0.0
加賀水引	6	25.0
加賀提灯	0	0.0
金沢表具	0	0.0
任意回答	1	4.2

※任意回答 金工1



問7 金沢の工芸品を制作する体験をしたことがありますか。(n=222)

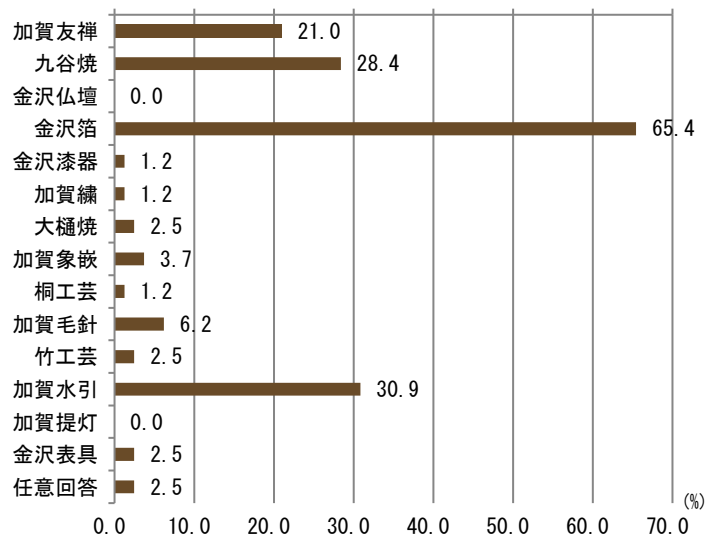
回答	人数	%
複数回ある	44	19.8
1回だけある	37	16.7
体験したことがない	141	63.5



問8 (問7で「複数回ある」「1回だけある」と答えた人) どの分野の工芸体験をしましたか。(複数選択可) (n=81)

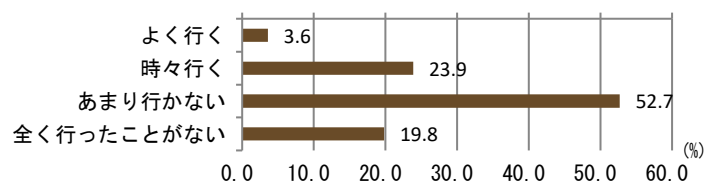
回答	人数	%
加賀友禅	17	21.0
九谷焼	23	28.4
金沢仏壇	0	0.0
金沢箔	53	65.4
金沢漆器	1	1.2
加賀繡	1	1.2
大樋焼	2	2.5
加賀象嵌	3	3.7
桐工芸	1	1.2
加賀毛針	5	6.2
竹工芸	2	2.5
加賀水引	25	30.9
加賀提灯	0	0.0
金沢表具	2	2.5
任意回答	2	2.5

※任意回答 郷土玩具2



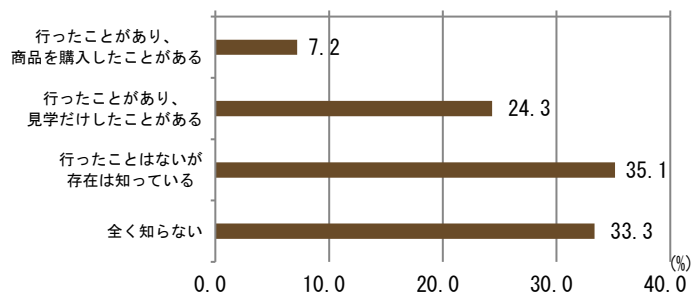
問9 ギャラリーなど工芸品を取り扱うお店に行くことはありますか。(n=222)

回答	人数	%
よく行く	8	3.6
時々行く	53	23.9
あまり行かない	117	52.7
全く行ったことがない	44	19.8



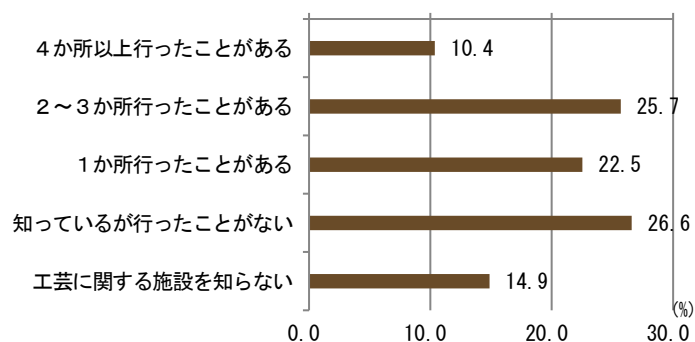
問10 金沢・クラフト広坂に行ったことはありますか。(n=222)

回答	人数	%
行ったことがあり、商品を購入したことがある	16	7.2
行ったことがあり、見学だけしたことがある	54	24.3
行ったことはないが、存在は知っている	78	35.1
全く知らない	74	33.3



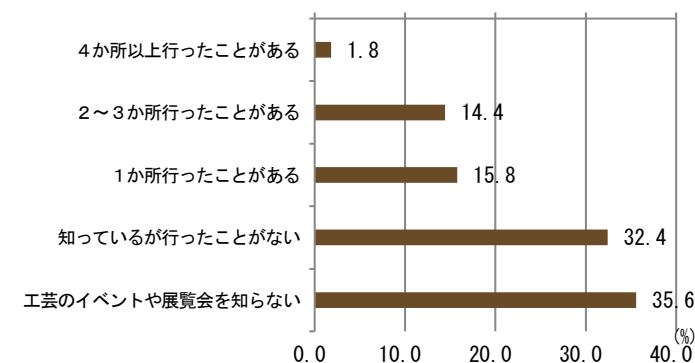
問11 工芸に関する施設（県立伝統産業工芸館、安江金箔工芸館、中村記念美術館、加賀友禅会館など）に行ったことはありますか。(n=222)

回答	人数	%
4か所以上行ったことがある	23	10.4
2～3か所行ったことがある	57	25.7
1か所行ったことがある	50	22.5
知っているが行ったことがない	59	26.6
工芸に関する施設を知らない	33	14.9



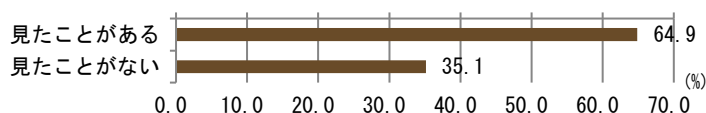
問12 金沢市内で開催されている工芸のイベントや展覧会（KOGEIフェスタ！、金沢21世紀工芸祭、KOGEI Art Fair Kanazawa、金沢市工芸展など）に行ったことはありますか。(n=222)

回答	人数	%
4か所以上行ったことがある	4	1.8
2～3か所行ったことがある	32	14.4
1か所行ったことがある	35	15.8
知っているが行ったことがない	72	32.4
工芸のイベントや展覧会を知らない	79	35.6



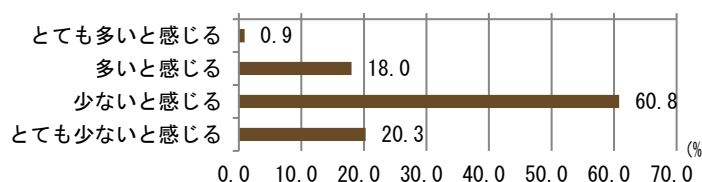
問13 金沢市内の飲食店等で金沢の工芸品が使われているところを見たことはありますか。(n=222)

回答	人数	%
見たことがある	144	64.9
見たことがない	78	35.1



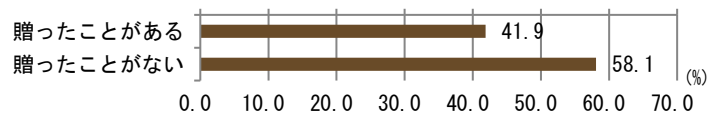
問14 子どもが工芸に触れる機会が多いと思いますか。(n=222)

回答	人数	%
とても多いと感じる	2	0.9
多いと感じる	40	18.0
少ないと感じる	135	60.8
とても少ないと感じる	45	20.3



問15 家族や友人などのプレゼントとして工芸品を贈ったことがありますか。(n=222)

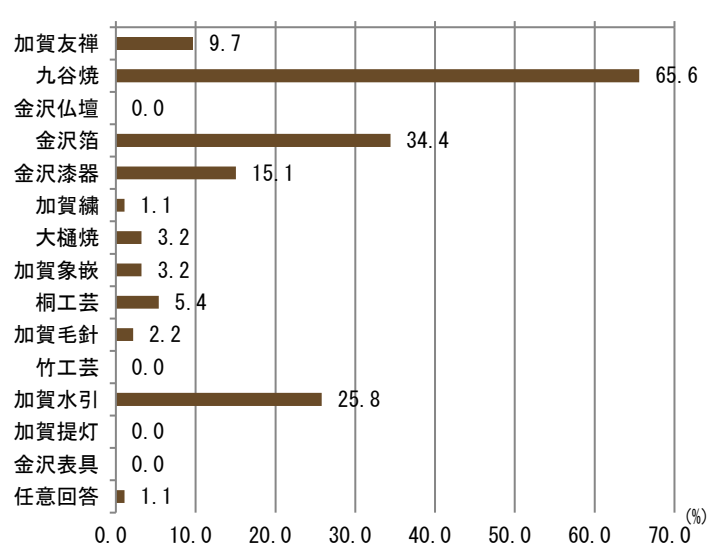
回答	人数	%
贈ったことがある	93	41.9
贈ったことがない	129	58.1



問16 (問15で「贈った」と答えた人) プレゼントした工芸品はどれですか。(複数選択可)

(n=93)

回答	人数	%
加賀友禅	9	9.7
九谷焼	61	65.6
金沢仏壇	0	0.0
金沢箔	32	34.4
金沢漆器	14	15.1
加賀繡	1	1.1
大樋焼	3	3.2
加賀象嵌	3	3.2
桐工芸	5	5.4
加賀毛針	2	2.2
竹工芸	0	0.0
加賀水引	24	25.8
加賀提灯	0	0.0
金沢表具	0	0.0
任意回答	1	1.1

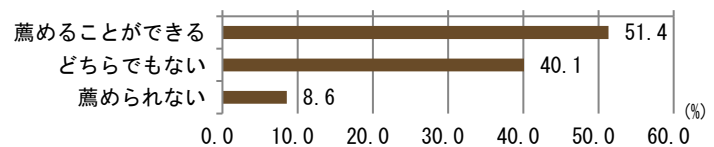


※任意回答 手まり1

※未回答 1

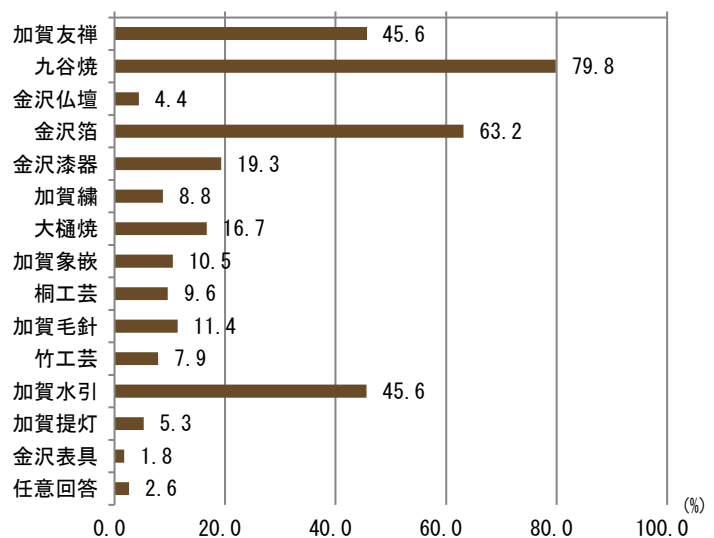
問17 市外の人に、金沢の工芸品の購入を薦めることはできますか。(n=222)

回答	人数	%
薦めることができる	114	51.4
どちらでもない	89	40.1
薦められない	19	8.6



問18 (問17で「薦めることができる」と答えた人) 市外の人に購入を薦めたい工芸はどれですか。(複数選択可) (n=114)

回答	人数	%
加賀友禅	52	45.6
九谷焼	91	79.8
金沢仏壇	5	4.4
金沢箔	72	63.2
金沢漆器	22	19.3
加賀繡	10	8.8
大樋焼	19	16.7
加賀象嵌	12	10.5
桐工芸	11	9.6
加賀毛針	13	11.4
竹工芸	9	7.9
加賀水引	52	45.6
加賀提灯	6	5.3
金沢表具	2	1.8
任意回答	3	2.6



※任意回答 郷土玩具1、金沢和傘1、手まり1

【資料10】 令和５年度 工芸に関する意識調査概要（金沢市eモニター制度*）

実施期間	令和5年7月14日～28日	
対象者	市内在住の18歳以上の方250名	

【対象者内訳】

年代	人数	%
10歳代	6	2.4
20歳代	31	12.4
30歳代	32	12.8
40歳代	44	17.6
50歳代	40	16.0
60歳代	38	15.2
70歳以上	59	23.6
計	250	100.0

10歳代

20歳代

30歳代

40歳代

50歳代

60歳代

70歳以上

【回答者内訳】 回答率76.4%

年代	人数	%
10歳代	2	1.0
20歳代	15	7.9
30歳代	20	10.5
40歳代	36	18.8
50歳代	33	17.3
60歳代	36	18.8
70歳以上	49	25.7
計	191	100.0

10歳代

20歳代

30歳代

40歳代

50歳代

60歳代

70歳以上

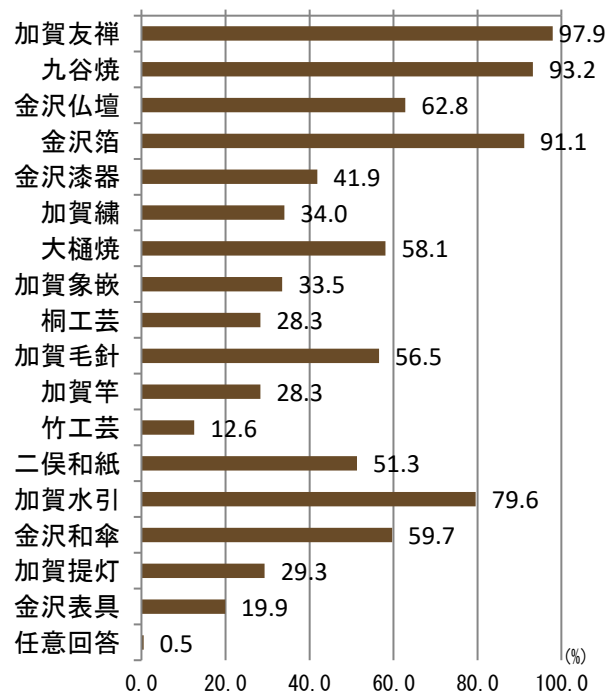
*金沢市eモニター制度とは、「eモニター」として登録いただいた市民のみなさまに、パソコンや携帯電話からインターネットと電子メールを利用して、市からのアンケート調査にお答えいただくものです。

問1 「金沢の工芸」で知っているものはどれですか。(複数回答可) (n=191)

回答	人数	%
加賀友禅	187	97.9
九谷焼	178	93.2
金沢仏壇	120	62.8
金沢箔	174	91.1
金沢漆器	80	41.9
加賀繡	65	34.0
大樋焼	111	58.1
加賀象嵌	64	33.5
桐工芸	54	28.3
加賀毛針	108	56.5
加賀竿	54	28.3
竹工芸	24	12.6
二俣和紙	98	51.3
加賀水引	152	79.6
金沢和傘	114	59.7
加賀提灯	56	29.3
金沢表具	38	19.9
任意回答	1	0.5

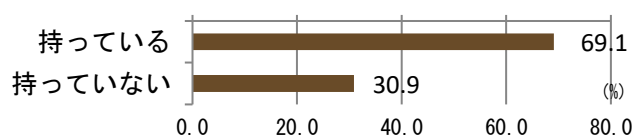
※任意回答 中島めんや1

※未回答 1



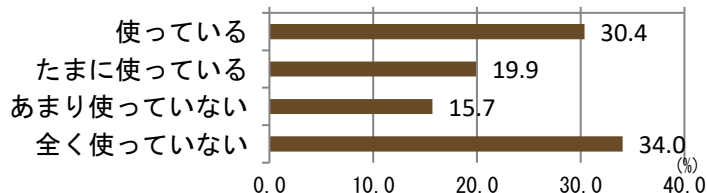
問2 金沢の工芸品をお持ちですか。(n=191)

回答	人数	%
持っている	132	69.1
持っていない	59	30.9



問3 日頃から金沢の工芸品を使っていますか。(n=191)

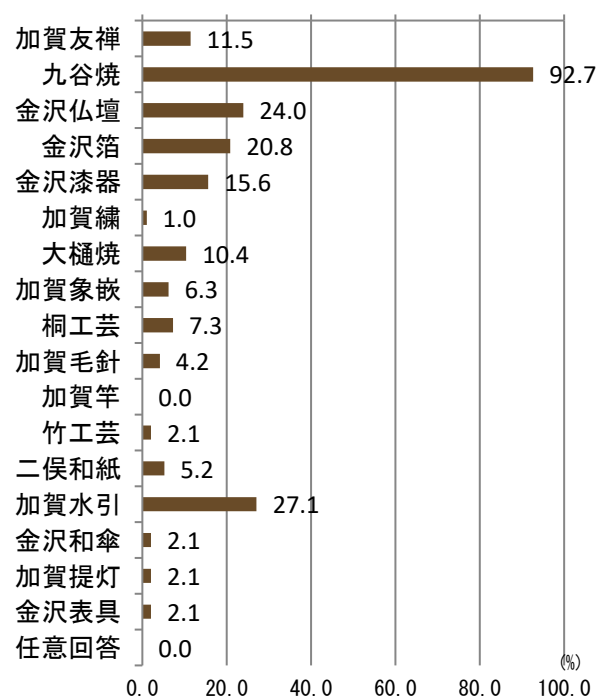
回答	人数	%
使っている	58	30.4
たまに使っている	38	19.9
あまり使っていない	30	15.7
全く使っていない	65	34.0



問4（問3で「使っている」「たまに使っている」と答えた人）日頃使っている金沢の工芸品はどれですか。（複数選択可）（n=96）

回答	人数	%
加賀友禅	11	11.5
九谷焼	89	92.7
金沢仏壇	23	24.0
金沢箔	20	20.8
金沢漆器	15	15.6
加賀繡	1	1.0
大樋焼	10	10.4
加賀象嵌	6	6.3
桐工芸	7	7.3
加賀毛針	4	4.2
加賀竿	0	0.0
竹工芸	2	2.1
二俣和紙	5	5.2
加賀水引	26	27.1
金沢和傘	2	2.1
加賀提灯	2	2.1
金沢表具	2	2.1
任意回答	0	0.0

※未回答 1



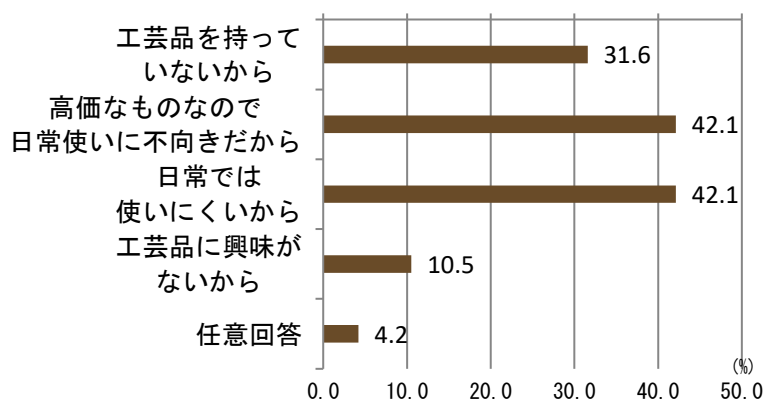
問5（問3で「あまり使っていない」「全く使っていない」と答えた人）金沢の工芸品を使わない理由は何ですか。（複数回答可）（n=95）

回答	人数	%
工芸品を持っていないから	30	31.6
高価なものなので日常使いに不向きだから	40	42.1
日常では使いにくいから	40	42.1
工芸品に興味がないから	10	10.5
任意回答	4	4.2

※任意回答

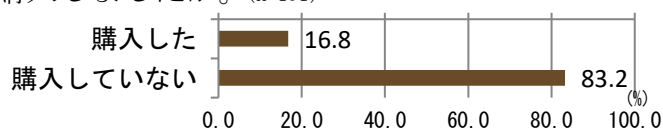
- ・日常的には必要ではないから。
- ・九谷の皿は飾ってあるだけ。加賀毛針は海釣りには使えないから
- ・高価でなかなか購入できない。本当はほしい
- ・絵柄が好みじゃない

※未回答 8



問6 この1年間に自分用に金沢の工芸品を購入しましたか。（n=191）

回答	人数	%
購入した	32	16.8
購入していない	159	83.2



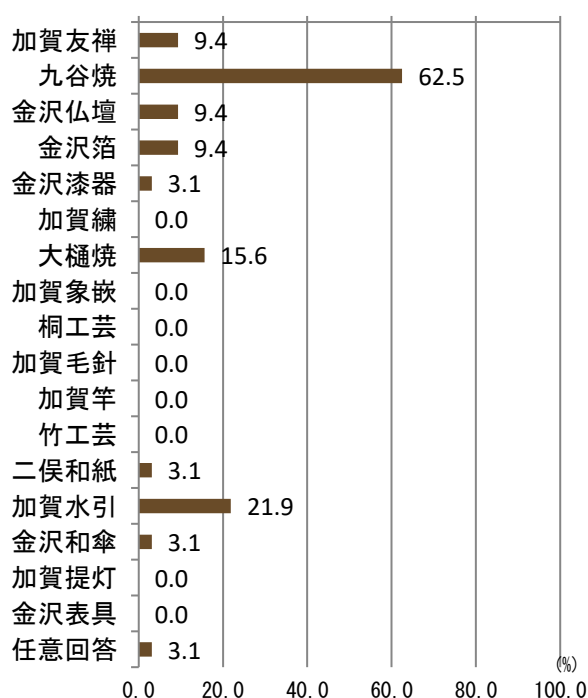
問7 (問6で「購入した」と答えた人) 購入した金沢の工芸品はどれですか。(複数選択可)

(n=32)

回答	人数	%
加賀友禅	3	9.4
九谷焼	20	62.5
金沢仏壇	3	9.4
金沢箔	3	9.4
金沢漆器	1	3.1
加賀繡	0	0.0
大樋焼	5	15.6
加賀象嵌	0	0.0
桐工芸	0	0.0
加賀毛針	0	0.0
加賀竿	0	0.0
竹工芸	0	0.0
二俣和紙	1	3.1
加賀水引	7	21.9
金沢和傘	1	3.1
加賀提灯	0	0.0
金沢表具	0	0.0
任意回答	1	3.1

※任意回答 箔打紙、あぶらとり紙1

※未回答 3



問8 金沢の工芸品について、興味のあるものはどれですか。(複数回答可) (n=191)

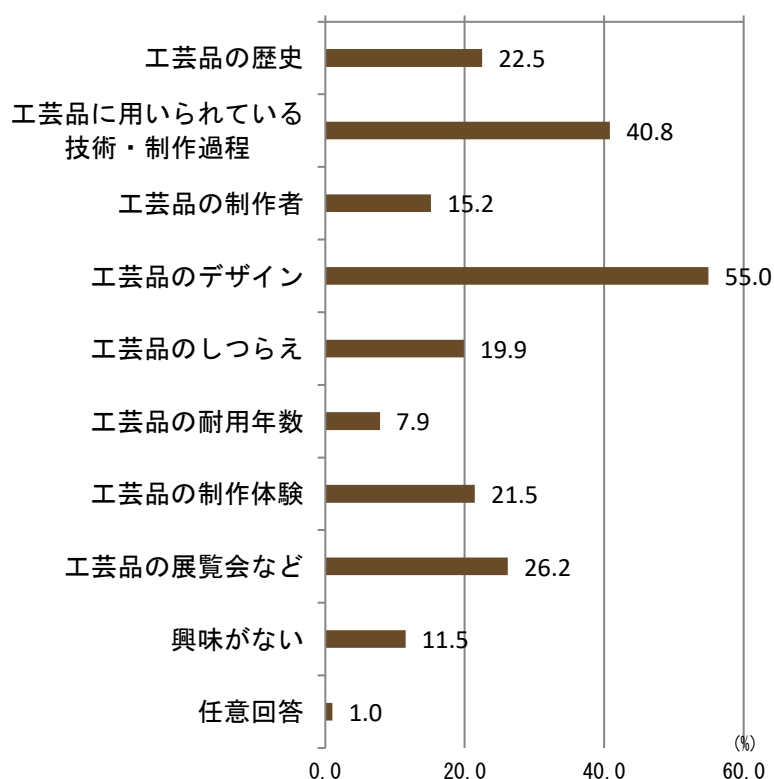
回答	人数	%
工芸品の歴史	43	22.5
工芸品に用いられている技術・制作過程	78	40.8
工芸品の制作者	29	15.2
工芸品のデザイン	105	55.0
工芸品のしつらえ	38	19.9
工芸品の耐用年数	15	7.9
工芸品の制作体験	41	21.5
工芸品の展覧会など	50	26.2
興味がない	22	11.5
任意回答	2	1.0

※任意回答

・身近に感じられない

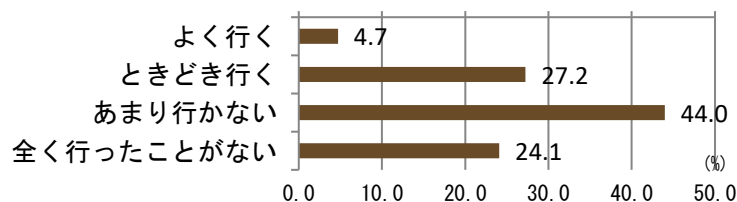
・工芸とは関係ないかもしれませんが、ひび割れた陶器を金箔等で直す技術に興味があります。

※未回答 10



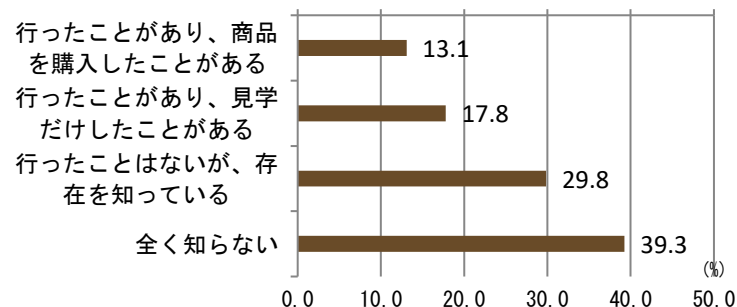
問9 ギャラリーなど工芸品を取り扱うお店に行くことはありますか。(n=191)

回答	人数	%
よく行く	9	4.7
ときどき行く	52	27.2
あまり行かない	84	44.0
全く行ったことがない	46	24.1



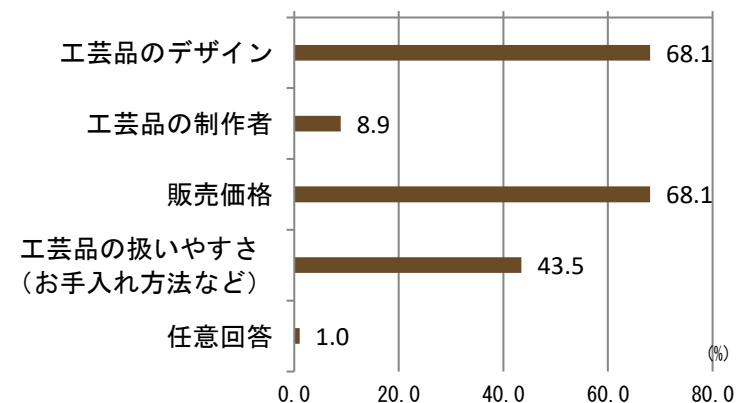
問10 「金沢・クラフト広坂」に行ったことはありますか。(n=191)

回答	人数	%
行ったことがあり、商品を購入したことがある	25	13.1
行ったことがあり、見学だけしたことがある	34	17.8
行ったことはないが、存在を知っている	57	29.8
全く知らない	75	39.3



問11 工芸品の購入を検討するときは何を重要視しますか。(複数回答可) (n=191)

回答	人数	%
工芸品のデザイン	130	68.1
工芸品の制作者	17	8.9
販売価格	130	68.1
工芸品の扱いやすさ(お手入れ方法など)	83	43.5
任意回答	2	1.0



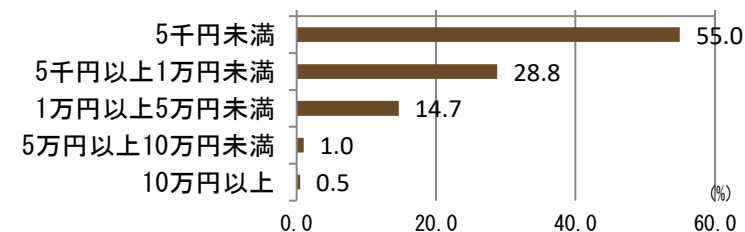
※任意回答

- ・購入を検討したことがない
- ・値段

※未回答 9

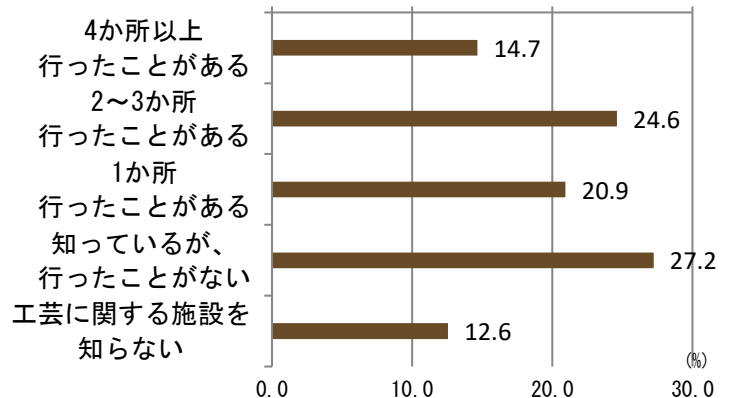
問12 購入を検討する工芸品の価格帯を教えてください。(n=191)

回答	人数	%
5千円未満	105	55.0
5千円以上1万円未満	55	28.8
1万円以上5万円未満	28	14.7
5万円以上10万円未満	2	1.0
10万円以上	1	0.5



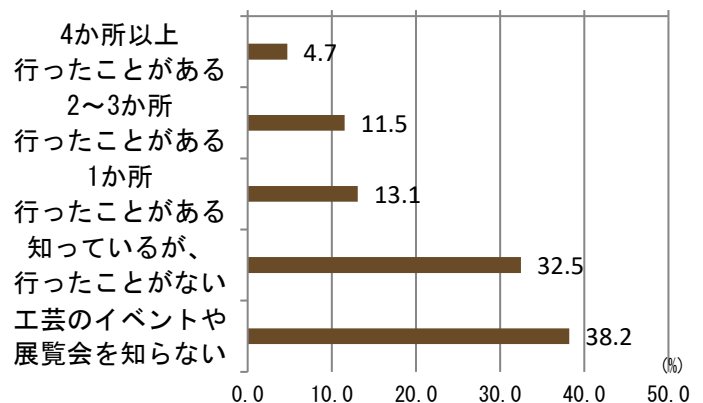
問13 国内の工芸に関する施設（国立工芸館、石川県立伝統産業工芸館、金沢市立安江金箔工芸館など）に行ったことはありますか。（n=191）

回答	人数	%
4か所以上行ったことがある	28	14.7
2～3か所行ったことがある	47	24.6
1か所行ったことがある	40	20.9
知っているが、行ったことがない	52	27.2
工芸に関する施設を知らない	24	12.6



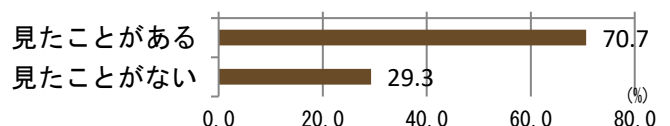
問14 金沢市内で開催されている工芸のイベントや展覧会（KOGEIフェスタ！、金沢21世紀工芸祭、KOGEI Art Fair Kanazawa、金沢市工芸展など）に行ったことはありますか。（n=191）

回答	人数	%
4か所以上行ったことがある	9	4.7
2～3か所行ったことがある	22	11.5
1か所行ったことがある	25	13.1
知っているが、行ったことがない	62	32.5
工芸に関する施設を知らない	73	38.2



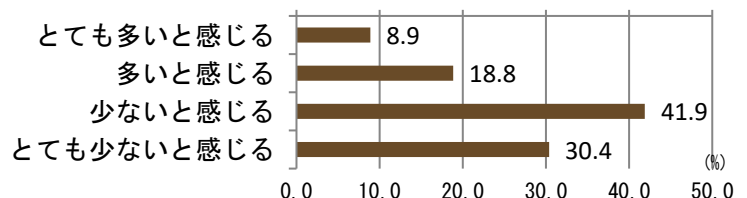
問15 金沢市内の飲食店等で金沢の工芸品が使われているところを見たことがありますか。（n=191）

回答	人数	%
見たことがある	135	70.7
見たことがない	56	29.3



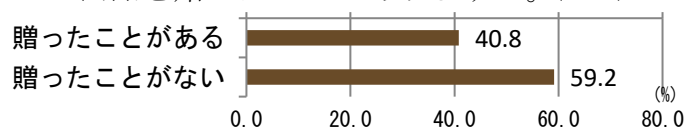
問16 子どもが工芸に触れる機会が多いと思いますか。（n=191）

回答	人数	%
とても多いと感じる	17	8.9
多いと感じる	36	18.8
少ないと感じる	80	41.9
とても少ないと感じる	58	30.4



問17 家族や友人などへのプレゼントとして工芸品を贈ったことがありますか。（n=191）

回答	人数	%
贈ったことがある	78	40.8
贈ったことがない	113	59.2

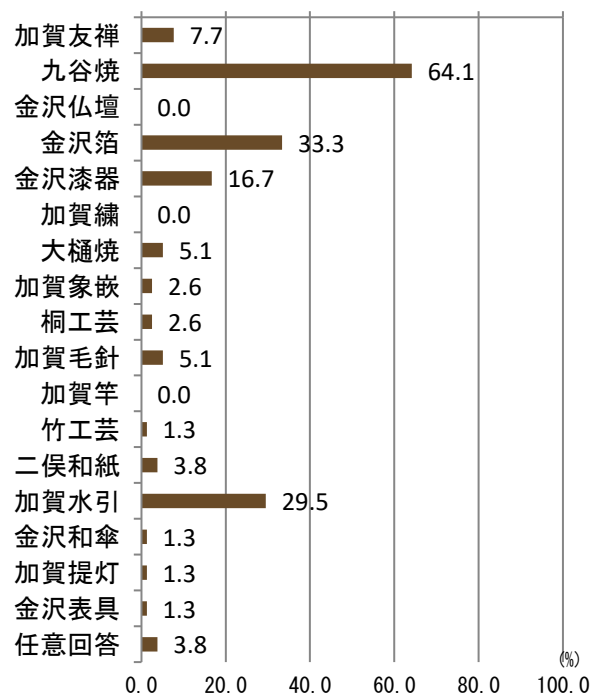


問18（問17で「贈ったことがある」と答えた人）プレゼントした工芸品はどれですか。
（複数回答可）（n=78）

回答	人数	%
加賀友禅	6	7.7
九谷焼	50	64.1
金沢仏壇	0	0.0
金沢箔	26	33.3
金沢漆器	13	16.7
加賀繡	0	0.0
大樋焼	4	5.1
加賀象嵌	2	2.6
桐工芸	2	2.6
加賀毛針	4	5.1
加賀竿	0	0.0
竹工芸	1	1.3
二俣和紙	3	3.8
加賀水引	23	29.5
金沢和傘	1	1.3
加賀提灯	1	1.3
金沢表具	1	1.3
任意回答	3	3.8

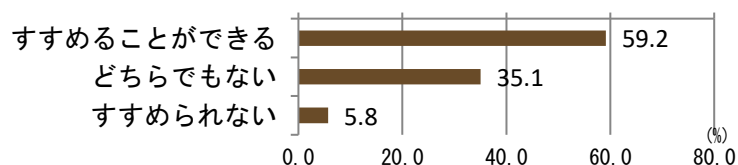
※任意回答 脂取り紙1、中島めんや1、輪島塗1

※未回答 3



問19 市外の人に、金沢の工芸品の購入をすすめることはできますか。（n=191）

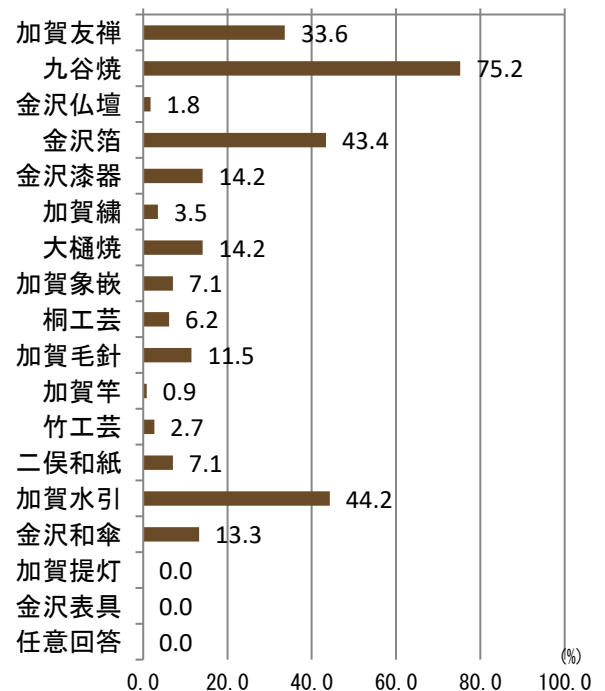
回答	人数	%
すすめることができる	113	59.2
どちらでもない	67	35.1
すすめられない	11	5.8



問20 (問19で「すすめることができる」と答えた人) 市外の人に購入をすすめたい工芸品はどれですか。(複数回答可) (n=113)

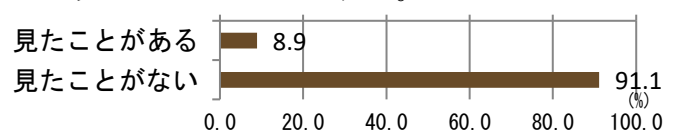
回答	人数	%
加賀友禅	38	33.6
九谷焼	85	75.2
金沢仏壇	2	1.8
金沢箔	49	43.4
金沢漆器	16	14.2
加賀繡	4	3.5
大樋焼	16	14.2
加賀象嵌	8	7.1
桐工芸	7	6.2
加賀毛針	13	11.5
加賀竿	1	0.9
竹工芸	3	2.7
二俣和紙	8	7.1
加賀水引	50	44.2
金沢和傘	15	13.3
加賀提灯	0	0.0
金沢表具	0	0.0
任意回答	0	0.0

※未回答 6



問21 「金沢市デジタル工芸展」のWebサイトを見たことがありますか。(n=191)

回答	人数	%
見たことがある	17	8.9
見たことがない	174	91.1



問22 デジタル技術を工芸分野でどのように活用できると思いますか(複数回答可)。

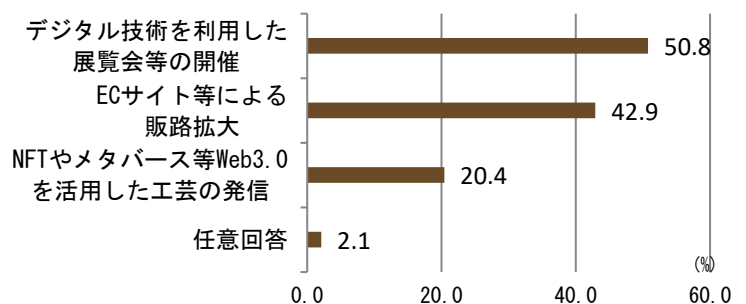
(n=191)

回答	人数	%
デジタル技術を利用した展覧会等の開催	97	50.8
ECサイト等による販路拡大	82	42.9
NFTやメタバース等Web3.0を活用した工芸の発信	39	20.4
任意回答	4	2.1

※任意回答

- ・デジタルアートの転写
- ・わからない
- ・興味が無いため
- ・デジタルに縛られないで。

※未回答 32



[資料11] 都市宣言など

(1) 世界工芸都市宣言（平成7年議決）

私たちのまち金沢は、香り高い伝統文化と四季折々の美しい自然の中で、多くの名工を輩出し、世界に誇る幾多の手技による名品を生み出すとともに、市民生活の中に格調高い技と美に対する豊かな感性をはぐくんできた。

私たちすべての市民は、

- 1 美しい伝統的・文化的遺産と環境の保全
- 1 伝統的で高度な技法・技術の継承と後継者の育成
- 1 未来に向けた生き生きとした創造精神の発揚
- 1 新しい独自の個性を持った創作活動の支援

を基本に、さらなる新しい「ものづくりのこころ」を世界に向け継承、発信していくことを宣言する。

(2) 金沢ファッション産業都市宣言（平成16年議決）

私たちのまち金沢は、かおり高い伝統文化を培い、独創性に富む職人の技を受け継ぎ、蓄積された学術とのつながりをもって、独自の産業・文化を発展させてきた。

この土壌を活かし、繊維はもとより、生活文化すべてにかかわるファッションの分野において、質の高いものづくりを推進し、新たな産業を育て、都市の活力をさらに高めようとするものである。

このため、私たちすべての市民は、

- 1 異文化、異業種との交流、融合によるファッション産業の振興
- 1 産業と学術の連携によるファッション研究の推進
- 1 豊かな感性あふれるファッション創造のための人材育成

を基本に、世界をリードするファッション産業都市づくりを進めていくことを宣言する。

(3) 金沢市ものづくり基本条例（平成21年施行）

本市におけるものづくりについて、基本理念を定め、事業者、産業関係団体、高等教育機関、市民及び市の役割を明らかにするとともに、ものづくりに関する施策の基本となる事項等を定めることにより、ものづくりを総合的かつ計画的に推進し、本市の健全かつ持続的な発展に寄与することをめざしています。

(4) ユネスコ創造都市ネットワーク・クラフト分野登録（平成21年登録）

創造都市とは、地域固有の文化が、誇りや愛着のある付加価値の高い産業を促し、そのことがさらに新しい文化への刺激や投資にもつながって、市民の生活を豊かに暮らしの質を高めている、いわば「創造的な文化活動と革新的な産業活動の連環によって、まちを元気にしている都市」のことです。

ユネスコ創造都市ネットワークとは、グローバル化の進展により固有文化の消失が危惧される中、文化の多様性を保護するとともに、世界各地の文化産業が潜在的に有している様々な可能性を、都市間の戦略的な連携によって最大限に発揮させるための枠組みとして、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が平成16年に創設したものです。

金沢市は平成21年6月8日、ユネスコ創造都市ネットワークにクラフト分野で登録されました。令和5年11月1日現在、106か国の350都市が「ユネスコ創造都市」として認定されています。

【クラフト&フォークアート登録都市 66都市（47か国） 令和5年11月1日現在】

アスワン、カイロ（エジプト）、サンタフェ、パデューカ（アメリカ）、金沢市、丹波篠山市（日本）、利川、晋州、金海（韓国）、杭州、景德鎮、蘇州、濰坊（中国）、ファブリアーノ、カッラーラ、ビエッラ、コモ（イタリア）、ジャクメル（ハイチ）、ナッソー（バハマ）、プカロンガン、スラカルタ（インドネシア共和国）、アルアハサ（サウジアラビア）、バーミヤン（アフガニスタン）、ドゥラン、チョルデレグ（エクアドル）、イスファハン、バンダレ・アッパース（イラン）、ジャイプル、スリナガル（インド）、ルブンバシ（コンゴ民主共和国）、サン・クリストバル・デ・ラス・カサス（メキシコ）、バギオ（フィリピン）、バルセロス、カルダシュ・ダ・ライニャ、カステロ・ブランコ（ポルトガル）、チェンマイ、スコータイ（タイ）、ガブロヴォ（ブルガリア）、ジョアンペソア（ブラジル）、キュタフヤ、プルサ（トルコ）、リモージュ（フランス）、マダバ（ヨルダン）、ワガドゥグ（ブルキナファソ）、ポルトノボ（ベナン）、シェキ（アゼルバイジャン）、ソコデ（トーゴ）、テトゥアン（モロッコ）、チュニス（チュニジア）、アレグア（パラグアイ）、アヤクチョ（ペルー）、バララット（オーストラリア）、カルゴポリ（ロシア）、シャールジャ（アラブ首長国連邦）、トリニダ（キューバ）、ヴィリヤンディ（エストニア）、ビダ（ナイジェリア）、マニセス（スペイン）、ナクル（ケニア）、パスト（コロンビア）、パース（イギリス）、ブハラ（ウズベキスタン共和国）、ホイアン（ベトナム社会主義共和国）、モンテ・クリスティ（エクアドル共和国）、ウランバートル（モンゴル）

国)、ウムゲニ・ホウィック (南アフリカ共和国)

(5) 金沢の食文化の継承及び振興に関する条例 (平成25年施行)

藩政時代から培われ、市民の食習慣として生活に深く溶け込み、特有の発展を続けてきた金沢の食文化の継承及び振興について、市民、事業者及び市の役割を明らかにするとともに、金沢の食文化の継承及び振興を図るための事項を定めることにより、金沢の食文化の持続的な発展に寄与することを目的としています。

(6) 金沢市における文化の人づくりの推進に関する条例 (平成28年施行)

文化都市として伝統文化の継承発展と新たな文化の創造を担う人づくりに積極的に取り組むことにより、金沢を将来にわたり希望と活力に満ちた魅力あふれるまちとすることを目的としています。

金沢K O G E I アクションプラン

令和2年3月 策定

令和6年3月 改定

発行：金沢市経済局クラフト政策推進課

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号

電話：076-220-2373 FAX：076-260-7191

Mail: craft@city.kanazawa.lg.jp

